

愛学躬行歴史資料室がオープンしました

KPU NEWS 編集委員長 鈴木栄樹

去る5月22日（火）、育心館3階に愛学躬行歴史資料室がオープンしました。当日午前10時から、京薬会副会長森田和子氏の司会のもと、西野武志京薬会会長・後藤直正学長の挨拶、つづいてデザインをはじめ施工全般を担当していただいた乃村工藝社社長榎本修次様へ土屋勝理理事長より感謝状の贈呈があり、最後にテープがカットされました。当日は、読売新聞・産経新聞・薬事日報各社の取材もあり、歴史関係は一般教育分野の鈴木栄樹教授から、生薬標本関係は生薬学分野の松田久司教授から説明がなされました。



2014(平成26)年に創立130周年を迎えた本学では、同窓会組織の京薬会の発企により大学歴史資料室の開室が準備されてきました。その後、本学法人の理解と支援も得て、愛学躬行歴史資料室として開室が実現した次第です。本学の礎を築いた人々、多難な歴史のなかで本学の維持継承に努めてきた人々へ想いを馳せ、これからの本学について、あるいは薬学の未来について考える場としていただければ幸いです。なお、詳細については、本学サイトよりリーフレット(PDF)をダウンロードしてご覧いただければ幸いです。

※見学ご希望の方は本誌30ページの京薬会だよりをご覧ください



CONTENTS

■ 特集

CPC認証取得とこれからのリカレント教育..... 6

■ ご挨拶

就任・新任のご挨拶 2

■ お知らせ

Library News 11
クラブだより 15
2018年度 試験関係日程 16
人事 17
2019年度 京都薬科大学入学試験について 18
2019年度 大学院入学選考概要 19
教育後援会からのお知らせ 29
京薬会だより 30
お知らせ 30

■ コラム

卒業生からのメッセージ 10
京薬コレクション..... 11
水中でぶつぶつ 24

■ イベント

「白衣授与式」開催 10
市民公開講座「前立腺がん」開催 12
キャリアパスセミナー／臨床薬学研究者養成セミナー開催 12
創薬科学フロンティア研究センター講演会開催..... 13
第9回「KPUシンポジウム」開催 14
第2回「クリニカル・リサーチ・マネジメントプログラム」開催..... 29
飲酒マナーセミナーを行いました 29

■ 報告

2017年度 授業評価集計結果の報告 21
2017年度 決算について 22
平成30年度科学研究費助成事業 採択状況 25
ミス小野小町として～あなたも一歩を踏み出してみませんか～ 26
OIST SCIENCE CHALLENGE 2018 に参加して 27
受賞・掲載 31
京都薬科大学奨学寄付金芳名録 32

就任のご挨拶



副学長・研究科長

教授 赤路 健一

本年4月1日付で本学副学長ならびに研究科長を拝命いたしました。私は平成元年より平成10年まで、薬品化学教室の助教授として京都薬科大学に勤務しておりました。平成11年から大阪大学・蛋白質研究所をへて平成23年3月まで京都府立医科大学医学研究科教授として医学系学部・大学院の教育・研究に携わってまいりました。その後縁あって本学に戻り、再びこの大役を仰せつかることになりました。これまでに経験してまいりました国公立大学における様々な経験を、後藤学長のもとで新たなステージに入った本学の発展に少しでも生かせるよう努めたいと考えております。

私が最初に本学にお世話になっておりました時の4年制薬学教育システムは完全に6年制に移行し、すでに多くの卒業生が出ております。また、

この新しい体制のもと本学の諸施設も一新されました。しかし、本学の目指す教育・研究の本質は一貫しており、社会のどのような分野でも応用できる基盤的能力を持った学生の育成がきわめて重要な課題であると感じております。また、新たな薬学6年制における研究科の任務としては、3年次から研究活動に従事する学部学生が大学院での研究活動に安心して邁進できる体制整備とその活性化がきわめて重要であると考えております。本学大学院を修了した学位保持薬剤師がその問題発見・解決能力をフルに生かして学術分野や臨床現場をはじめとする多彩な活動分野で活躍できるよう、微力ながら貢献したいと願っております。

1期目の経験で副学長職・研究科長職の重要性を身にしみて感じました。まだまだ対応しきれておりませんが、出来る限り後藤学長を補佐し本学に貢献できるように努めたいと思っております。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



教務部長

さかえだ としゆき
教授 栄田 敏之

本年4月、教務部長を拝命いたしました。教務部、教務課の教職員の方々とともにその役目を果たす所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、就任にあたって、学生の皆さんには、本学の教育理念や教育目的がどのようなものか、どのような素養を身につけてほしいと考えているか、をお伝えしたいと思います。

本学は高度の教育・学術研究機関として、薬学の教育・研究を推進することにより、生命の尊厳を基盤として人類の健康と福祉に貢献することを教育理念としています。医療・創薬・生命科学に関する幅広い専門知識に基づいた思考力と行動力、さらには豊かな教養と生命の尊厳を踏まえた高い倫理観を伴う人間性を兼ね備えた薬剤師に必要な能力を身につけ、多様な領域において活躍できる人材を育成したいと考えています。すなわち、

基礎薬学・臨床薬学の知識・技術を統合的に活用し、それに基づいて思考・実証し、また、他者の多様性あるいは他職種との協働に対応できる素養を身につけてほしいと考えています。多くの講義、演習、実習科目がありますが、それらは互いに独立したものではなく、身につけてほしい素養の修得に向け、関連性を持たせています。これらはシラバスに記しています。是非とも読んでほしいと思います。

医療を取り巻く環境は日々変化しています。少子高齢化を踏まえ、病院、診療所での医療から在宅での医療へ、改革は既に始まっています。また、最近話題となることが多いAIですが、その発展に伴う医療の変化についてはまだまだ推測の域を出ません。しかしながら、近未来の医療に必要な素養は、考える力、伝える力、思いやる心、だと思えます。得た情報を、そのまま、患者に医療チームに渡すだけでは、より良い医療は提供できません。皆さんにはその素養を身につける能力があります。在学中はもちろんのこと、卒後も継続して、自己研鑽に努めてほしいと思います。頑張ってください。応援します。



学生部長

うわの よしお
教授 上野 嘉夫

本年4月より長澤一樹教授の後任として学生部長を拝命いたしました。学生部委員会と学生課の教職員の方々と緊密に協力して役目を務めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。学生部の仕事は、英語の「Student Affairs」のとおりで、「学生に関すること」です。学生生活に関わる諸手続きに限らず、学生生活の全般で相談ごとが出てきたら、遠慮なく学生課の窓口まで相談に来てください。「窓口ではちょっと」と思ったら、医務室や学生相談室（学生部の所管）、学生相談員への相談も考えてみてください。

さて、「多様性」や「個性」という単語を、昨今よく耳にしませんか？ Wikipediaの「多様性」のトップには、「・・・性質に類似性のある群が形成される点

が特徴で、単純に『いろいろある』こととは異なる。」とあります。これを京都薬科大学という場で考えてみましょう。学生諸君は、薬剤師の資格取得を基本に据えて医療や薬学に携わる志を胸に日々学んでいます（性質の類似性）。ここを外した「他とは違う」振る舞いは、「多様性」でも「個性」でもないといえます。より広い視野で見ると、京薬生の「多様性」や「個性」とは、社会のルール（法律やマナー）の遵守と、医療人を志す高い倫理観を大前提として、表現・発揮されるべきなのです。大学の近隣地域をはじめとする大学の外側の社会は、学生諸君がこれらの大前提を守ってはじめて、諸君の勉学や課外活動をポジティブに評価してくださるのです。朝の「あいさつ運動」や、通学や飲酒のマナー啓発などは、これらの大前提の醸成のための取り組みです。新入生は「最初が肝心」です。上級生は下級生の手本となるような行いを示してください。決して難しいことはありません。社会ルールを守り高い倫理観で、大いに学び、大いに楽しみ、大いに行動の翼を広げてください。学生部は、そのようなみなさんを支援します。



進路支援部長

教授 安井 裕之

本年4月より栄田敏之教授の後任として進路支援部長を拝命しました。進路支援部の教員および進路支援課の事務職員の皆さんと任を果たしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ここでは、私から京薬生の皆さんにメッセージをお伝えすることで就任の挨拶に代えたいと存じます。

皆さんは卒業後の進路について、具体的なイメージをどれほどお持ちですか。そもそも健康な若者ですから、病院や薬局に行かれた経験が少ないのでは。医療機関の現場の雰囲気、患者やその家族の心持ち、医師・薬剤師・看護師が携えるモチベーションや責任感など、直ぐには想像できないでしょう。製薬企業の社員についても具体的なイメージを抱くのは難しいはずです。少し意地悪な言い方になりますが、全く知らないし想像も難しいのが皆さんにとっての事実ではないでしょうか。

京薬生が進路を真剣に考え始めるのは4年次生頃からの印象があります。通常の大学生なら就職活動の時期ですから、薬学部が6年制とは言え少し遅い気がします。もう少し早い時期、3年次生頃から少しずつでも考え始めてはいかがでしょう。大切なのは、何事も自身自身で調べてみて、その結果を複数の見方で整理してみることです。医療機関や製薬企業以外にも、薬剤師が活躍できる業種は広くいき渡っています。その事実、自らの調査と検証で気付いて欲しいのです。病院で

も急性期から慢性期医療まで、患者の質は千差万別であり、疾患の重症度が違えば薬剤師に求められる仕事の中身は全く変わります。病院薬剤師と言っても異なる職種の様相です。保険薬局では、薬剤師の職務内容や働き甲斐自体が、経営者の方針に大きく影響を受けることもあるでしょう。製薬企業は、会社の規模と目標によって任される仕事の大きさや深さが異なります。企業の職種は、研究、開発、生産、品質管理、学術、営業など、より多岐にわたりますが、薬学部で学ぶ大きなアドバンテージの1つは、皆さんが生身の患者さんとface to faceで接する経験を得られることなのです。

さあ、具体的な行動を起こすには何から始めましょうか。まず、配布されている「キャリア支援プログラム」と進路支援課の資料室にある「進路の手引き」をご覧ください。手厚く準備されたサポート体制を理解してもらえそうです。薬剤師を取り巻く社会的な環境は常に変化していますから、「これからの世界はどうなるのか。日本の医療はどう変わっていくのか」を真剣に読み解いていくことが何よりも大切な、進路に関する勉強になるでしょう。加えて、本来的な順番では先かもしれませんが、「自分がやりたいこと（性格や志向）と、自分がやれること（適正や能力）」が、20代、30代、40代でもそのままなのか、あるいは変わっていくのかを捉えなおす態度も大切です。進路支援課では、皆さんが進路について考える際に有益な質の高い情報を提供するとともに、個々に合わせて、さまざまなサポートを行っています。

本学の学生の能力は高いと思います。有意義な学生生活を送って、真に希望する進路を見つけ、その進路に進まれることを全力で応援いたします。

新任のご挨拶



創薬科学系
薬化学分野

たくみ
教授 古田 巧

この度、平成30年4月1日付で薬化学分野を担当させて頂くこととなりました。私は平成5年に岡山大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科に進学し修士課程を修了いたしました。その後、京都大学大学院薬学研究科博士後期課程に進学し、富士薫先生のもと博士（薬学）の学位を取得しました。奈良先端科学技術大学院大学、米国コロンビア大学で博士研究員として研鑽を積み、平成13年より静岡県立大学薬学部助手、平成20年より京都大学化学研究所准教授として教育、研究に携わってきました。

これまで有機化学を基盤とする様々な研究を行ってきましたが、本学では従来の有機合成法を大きく進歩させるような触媒反応の開発を中心に研究に取り組めます。この取り組みを通し、効率的な医薬品合成法の提案、医薬のシードとなる生物活性物質の創出を行いたいと考えています。

有機化学の学問的な本質は「分子の振る舞いを探求する」ことにあります。これは薬という分子が生体に対していかに振る舞うかを学び探求する薬学の本質そのものであり、薬学での有機化学の重要性は論を待ちません。講義や研究を通してその重要性や面白さを伝えるとともに、有機化学の素養豊かな薬剤師、並びに優れた有機合成化学者の育成に微力を尽くす所存です。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



病態薬科学系
薬理学分野

さとし
教授 田中 智之

平成30年4月1日より薬理学分野に着任いたしました。伝統ある本学に加えていただくことは光栄の至りです。

私は京都大学薬学部で市川厚教授（衛生化学教室）に研究者としての手ほどきを受け、同研究室の助手に就任し、その後、後任の中山和久教授にご指導いただきました。平成17年より武庫川女子

大学薬学部助教授、平成21年には岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の准教授として生体機能化学分野（合田榮一教授）に加わりました。平成24年には同分野（生体応答制御学に改称）の教授に昇任いたしました。

本学ではファーマシスト・サイエンティストという明確な人材育成の目標がかかげられており、若手研究者育成の環境が厳しくなった今、私は新たな光を見いだしております。マスト細胞の分化と機能制御の解明が私の研究テーマであり、新たな炎症疾患の治療法開発への貢献を目指しております。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



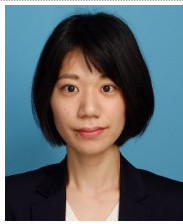
統合薬科学系

教授 高田 和幸

平成30年4月1日付で新設の統合薬科学系の教授を拝命いたしました。私は、平成11年に本学卒業後、谷口隆之元教授（現 本学名誉教授）、北村佳久元准教授（現 立命館大学薬学部教授）のご指導の下、博士（薬学）号を本学にて取得しました。引き続き、博士研究員を経て病態生理学分野助手（翌年より助教）として、平成24年からは芦原英司教授のご指導の下、

助教ならびに准教授として学部・大学院教育に携わり、この間、約2年間は留学の機会もいただきました。まさに、本学に育てられ現在に至っております。

さて、昨今のグローバル化とAI技術の発達には目を見張るものがございます。受け身でこれを迎えれば、用意された枠組みの中で本質を見失い、生涯を終えるのかもしれませんが。統合薬科学系では「生命現象の原理の発見から次世代医療の創造」をキーワードに、未来を予測し、自らの意思で将来を創造できる多様なリーダーを育成すべく、教育・研究の基盤構築に邁進する所存でございます。益々のご指導とご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。



事務局
企画・広報課

なかだち よりこ
事務員 仲達 依子

2018年4月1日付で入職し、事務局企画・広報課に配属となりました仲達と申します。

私は埼玉県出身で、2014年に大学を卒業後、キッチンメーカーのショールームで3年間アドバイザーとして勤務し、その後1年間は営業事務として営業活動

をサポートする業務に従事していました。

これまで携わった経験のない「薬学」の世界で新たな知識を吸収しながら、前職とはまた異なる幅広い業務に携われることに非常にやりがいを感じております。

今後は大学の魅力発信だけでなく、在学生、卒業生及びご関係の皆様への的確な情報発信に尽力し、本学に貢献できるよう精進して参ります。知識、経験において乏しい部分も多くあると思いますが、皆様のご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願いいたします。



事務局
庶務課

事務員 石原 由季

2018年4月1日付で庶務課に配属になりました。本誌面をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は大学卒業後、アパレルメーカーにて服飾雑貨を扱う仕事に従事しておりました。百貨店勤務がほとんどでしたが、そこで過ごした日々は多様なお客様のニーズにいかに対応していくかについて、楽しみながら学ばせていただいた時間だったように思います。

本学では2011年より事務補助臨時職員として教務課にてサポート業務に従事して参りました。この度ご縁があり、事務員として採用していただいたこと、非常に嬉しく感じております。

庶務課では旅費関係・施設使用関係の業務を担当しております。これまでとはまた違った業務で覚えることも多く、難しい表情をしているかもしれませんが、愛学館7階に在席しておりますので、何かありましたらお気軽にお声掛け下さい。

これまでの経験を活かしながら、本学の大学運営の発展に貢献できるよう、日々精進して参ります。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。



事務局
学生課

事務員 辻 美帆

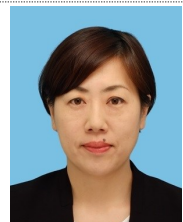
この度、2018年4月1日付で学生課兼国際交流推進室に着任いたしました。本誌面をお借りし、ご挨拶申し上げます。

私は2015年に中京大学スポーツ科学部競技スポーツ科学科を卒業し、卒業後は輸入車販売の営業職に就いておりました。学生時代はスポーツに打ち込み

ながら、教員も志していましたが、この度また違った形で教育に携わることが出来、大変嬉しく思っております。

退職後は車が好きだったので日本一周をしました。皆さんの出身地のいい所などあればぜひ教えてください。愛学館1階にいますので、気軽にお声かけください。

大学という新たなフィールドで、前職とは異なる業界、業種ではございますが、これまでの経験を活かしながら、学生の皆さんの学びを支えること、そして更なる本学の発展に尽力していけるよう邁進します。ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



事務局
進路支援課

にしむら ひろよ
事務員 西村 裕世

2018年4月1日付で事務局進路支援課に拝命しました西村と申します。

2016年4月より本学進路支援課で2年間契約職員として従事してまいりました。前職ではCDA（キャリアカウンセラー）の資格を活かし、京都府の受託事業

である「京都ジョブパーク」でハローワークと緊密に連携し、相談から就職、職場への定着まで支援に携わっておりました。様々な学生の相談を通して、私自身考えさせられる事が多く、日々活力をいただいております。今後学生が6年間の大学生活の中で自ら考える人材になれるよう、将来を見据えた学生生活を送れるように支援していきたいと考えます。またキャリア教育の取り組みを事務方として支えると共に、先生方や職員の方々の縁の下の力持ちとになりたいと考えております。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。

CPC認証取得とこれからのリカレント教育

本誌No.193号（2018年4月号）では、「京都薬科大学の生涯研修認定薬剤師制度が始まります」と題し、本学が公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構（CPC）から研修機関として認証されたことと今年度の生涯教育プログラムの概要についてお知らせいたしました。中央では、「人生100年時代構想会議」が設置され、「いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会。人生100年時代を見据えた経済社会」が構想されています。つまり、これから大学が提供する「生涯教育^{注1}」や「リカレント教育^{注2}」の重要性はさらに高まることが予想されます。

今回の特集では、このような状況において、本学がCPC認証を取得した意義と、今後目指していく生涯教育・リカレント教育の方向性について報告いたします。

KPU^{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

^{注1}：学校教育だけでなく、社会の成員すべてが一生にわたって必要な教育が受けられるよう保障すること。

（出典：『三省堂 大辞林』）

^{注2}：社会に出た者（社会人）が教育機関に入り直して改めて教育を受けるということおよびそうした活動を支援する制度や取り組み、考え方のこと。（出典：『新語時事用語辞典』）

Feature article.

生涯教育センター

I. 今、なぜ薬剤師生涯教育が必要なのか？

科学技術の発展により、想像をはるかに超える速度で人工知能（AI）が発達し、2045年には人間とAI能力が逆転するシンギュラリティに到達するという驚愕の将来像が提唱されています。実際、医療、金融、情報通信、教育など多くの分野でICTやIoT活用はますます加速し、人間が担う仕事が機械に置き換えられ、少子高齢化による労働人口の減少にも対応しつつあります。2015年に野村総合研究所から「2030年には日本の労働人口の49%がAIやロボットで代替可能になる」との推計が発表され衝撃が走りました。^{※1} この調査によると、無くなる仕事の特徴は定型的・体系的に物事を処理するもので、無くならない仕事は、芸術や哲学のような抽象的概念を扱うものやコミュニケーションを必要とする対人的なものでした。

では、「薬剤師」の仕事はAIで代替されてしまうのでしょうか？

外国のデータですが、英国オックスフォード大学からは「薬剤師が今後AIに仕事を奪われる可能性は1.2%（54位/702職種調査）」^{※2}、カナダCST（Canadian Scholarship Trust Plan）からは「2030年にAIにもロボットにも奪われない職業58選に薬剤師」が入っており^{※3}、少し胸をなでおろした記憶があります。ただし、ここでいう薬剤師は、現状の薬剤師業務のうち、ピッキング、調剤や監査をAIやロボットに委ね、対人業務に時間を割く薬剤師を指しています。

日本でも、2016年には地域包括ケアシステム構築を目指して、厚生労働省から「患者のための薬局ビジョン」が示され、薬剤師業務は「対物業務から対人業務」への移行期にあります。薬局薬剤師は、ICTを活用して、服薬情報の一元的・継続的把握と薬学的管理・指導を実施することにより、多剤・重複投薬防止やポリファーマシー解消などを担い、患者の薬物療法の安全性と有効性向上に貢献することが期待されています。

また、昨年9月には「人生100年時代構想会議」（議長：安倍首相）が始まり、超長寿社会において、人々がどのように活力をもって時代を生き抜いていくか、そのための経済・社会システムはどうあるべきなのかといったグランドデザインが検討され、社会人向けの学び直し教育を政策の柱の1つと位置付けています。

このような社会情勢の中で、薬剤師はどのようなキャリア形成を目指していけば良いのでしょうか？

近年、超高齢社会となり、医療がますます高度化・多様化するに伴い、患者は様々な状況下で薬物治療を受けるようになってきました。またジェネリック医薬品が普及し、ポリファーマシーによる複合的副作用増加に対応するため、医療の質や安全性向上を目指した社会保障制度改革が行われ、立地から機能へ、モノからヒトへ、病院完結型から地域包括ケアシステムへの転換を迎えています。多職種連携チーム医療の中で薬剤師の真の能力は薬学的専門性、すなわち大学薬学部で学習した薬理学、薬物動態学、製剤学、有機化学等、薬物が投与された後、時間の経過に伴ってどのように吸収、分布、代謝、排泄の過程をたどっていくのかを推測する基礎的な知識に加えて、社会に出てから実践の場と生涯学習の中で学ぶべき医療の共通用語とも言える臨床推論力であると考えられます。

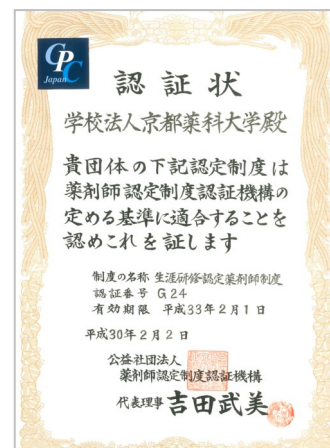
医学薬学の進歩は著しく、学んだ知識は常に追加更新する必要に迫られます。薬剤師法第1条に掲げられる「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」を果たすためにも、継続的に自己研鑽を積み、最先端医療の知識を得ることが必須と言えます。生涯学習は決して専門薬剤師を目指すためだけではなく、患者の健康に寄与する究極のジェネラリストとしての本来の薬剤師職能を向上させるため、全ての薬剤師が継続して行わねばなりません。

II. 生涯研修認定薬剤師制度とは

本学をはじめとする認定薬剤師認証研修機関が、継続的に自己研鑽に励む薬剤師を支援するため、薬剤師職能向上を目指した各種研修プログラムを企画、実施、評価し、成果に対して単位給付し、さらに一定水準の生涯研修記録に基づいて成果の認定を行う制度を、生涯研修認定薬剤師制度といいます。

公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構（CPC：Council on Pharmacists Credentials）はその質的第三者評価を行い、基準に適合する優れた研修認定薬剤師制度を認証し公表しています。2018年5月現在、30団体の生涯研修認定制度が認証を受けており、全て同列の認定として扱われ、研修単位は互換性があります。

2018年2月2日、本学はCPCから認定薬剤師認証研修機関の認証を取得しています（認証番号G24）。今後も生涯教育センターでは、薬学専門知識と科学的データに基づき高度な臨床推論力を発揮できる薬剤師育成を目的として、次世代薬剤師を目指す全ての薬剤師を対象に、薬剤師が継続的に自己研鑽を積めるよう、社会ニーズに沿った医学薬学専門知識と技能の両面を習得支援する研修プログラムを提供してまいります。研修受講者には受講証明書（研修単位）を配付しますので、研修認定薬剤師研修手帳を入手の上、4年以内に40単位以上（毎年5単位以上）を取得し、認定申請すれば、研修認定薬剤師として認定し研修認定薬剤師証を交付します。その後は3年ごとに30単位以上（毎年5単位以上）を取得することにより更新認定が受けられます。



認証状

III. 「生涯研修認定薬剤師制度」5つの意義

本学の生涯研修認定薬剤師制度の意義として次の5項目を示します。

1) 薬剤師として一定以上のレベルがあることを証明する

医療の高度化、多様化が進み、医学薬学は著しく進歩を遂げています。患者のために日々新しい知識を更新せねばなりません。薬剤師免許に更新制度がないからこそ、研修認定薬剤師であるということは、生涯研修を継続し最新の医学薬学知識を身につけている証明になります。

2) 研修認定薬剤師として活躍できる

厚生労働省が目指している「かかりつけ薬剤師・薬局」として地域包括ケアシステムの中で活躍することが望まれています。

3) 薬剤師としての視野が広がる

研修を通じて様々な講師や参加薬剤師に出会い、人脈や視野が広がることで、必ずや仕事の幅が広がり、薬剤師職能の向上につながります。

4) 科学的思考を持つ薬剤師になる

大学が研修認定薬剤師制度を担う意義の1つに、科学者としての目を持つ薬剤師育成があります。多職種連携チーム医療の中でも、薬剤師は薬学の専門家として科学にしっかり立脚することが重要です。

5) 臨床と基礎を融合できる薬剤師になる

現在の薬学教育において、まだまだ基礎教育と臨床教育の間に大きな乖離があるのが現状です。薬物療法のサイエンスを基盤とする以上、基礎で習得した個々の科学的基盤は臨床現場で必ず役立つはずですが、薬学基礎知識を駆使して臨床症例を解明し、臨床と基礎の間を埋めるような、大学ならではの研修プログラムを提供します。



研修認定薬剤師証のイメージ

IV. 本学が提供する主な研修プログラム

本学が提供する主な研修プログラムは下表のとおりです。プログラムの詳細はホームページをご参照ください。

研修プログラム	開催日時	開催場所	受講料	単位 (G24)	申込受付	詳細
卒後教育講座 〈全3回コース〉 (定員360名)	2018/5/20(日) 6/17(日) 7/1(日) 10:00～16:00	躬行館3階 T31講義室	12,000円	計9単位 3単位/日	受付終了	
〈新規開講〉 フィジカルアセスメント講座 〈入門コース〉 (定員100名)	2018/7/29(日) 9:30～15:30	愛学館3階 A31講義室 (愛学ホール)	5,000円	3単位	2018/5/16(水) ～7/16(月)	
〈新規開講〉 フィジカルアセスメントセミナー 〈アドバンストコース〉 (定員40名)	2018/10/14(日) 9:30～16:00	愛学館3階 A33講義室	10,000円	3.5単位	2018/7/25(水) ～9/24(月)	
臨床研究支援セミナー (定員50名)	2018/9/9(日) 12:00～17:00	臨床薬学 教育研究 センター2階 R23演習室	5,000円	3単位	2018/6/13(水) ～8/27(月)	
〈新規開講〉 漢方講座 〈全4回コース〉 (定員50名)	2018/9/9(日) 10/14(日) 11/11(日) 12/9(日) 12:00～17:00	愛学館3階 A31講義室 (愛学ホール)	20,000円	計12単位 3単位/日	2018/6/13(水) ～8/27(月)	

1) 卒後教育講座「薬剤師が知っておきたい8疾患」 ※本学学生参加無料（事前申込ください）

5月20日に全3回コースの1回目を開催しました。350名余りの参加者は、明日の業務につながる実践的な3講演（アレルギー、高血圧、心疾患）を受講し、服薬指導のコツ、最新の治療や治療薬の知識を学びました。次回6月17日には「AMR（薬剤耐性）対策」について、臨床と基礎を融合させる講座を予定しています。

2) フィジカルアセスメント講座〈入門コース〉 ※本学学生参加無料（事前申込ください）

多職種連携チーム医療の中で、医師、看護師、薬剤師それぞれの立場が行うフィジカルアセスメントの目的の違いを知り、安全で最適な薬物療法を提供するために薬剤師がフィジカルアセスメントを行う必要があることを学びます。

さらに、患者が示すバイタルサインと症候から処方設計し、医師の処方意図との違いを把握することにより明日の業務への実践を目指します。

3) フィジカルアセスメントセミナー〈アドバンストコース〉 ※薬剤師限定

在宅医療の役割がますます重視される中、地域包括ケアシステムを担う多職種連携チーム医療の一員として、薬剤師視点からフィジカルアセスメントを行うことを目指します。バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸、体温、意識レベルの5徴候）の測定意義を理解し、簡単な機器を使用した測定手技を習得します。さらに、実症例での医師の処方意図を把握し、その問題点を改善し、重大な副作用を防止回避することでチーム医療に大きく貢献するための処方設計までつなげます。

4) 臨床研究支援セミナー

科学的思考を持つ薬剤師にとって必要な研究課題のシーズに着眼する感性を向上させ、実際に薬剤師が臨床研究をするときの計画の立て方や研究の進め方の手技習得を目指します。

5) 漢方講座

近年、医学部でも漢方の講義が選択制から必須となるなど、時代の流れと共に漢方が見直され重要性は増しています。京都漢方研究会との共催開催です。

<参照>

※1) 野村総合研究所「NEWS RELEASE2015/12/2」

https://www.nri.com/jp/news/2015/151202_1.aspx

※2) オックスフォード大学「The Future of Employment（雇用の未来）」

<https://www.oxfordmartin.ox.ac.uk/downloads/academic/future-of-employment.pdf>

※3) カナダCST (Canadian Scholarship Trust Plan) 「Inspired Mind」

<https://careers2030.cst.org/jobs/page/3/>



研修会の様子

V. おわりに

特集記事の結びに、薬事日報（3月26日版）に掲載されました記事をご紹介します。

第11997号

(第三種郵便物認可)

薬 事 日 報

2018(平成30)年3月26日 月曜日 (8)



17年度の卒後教育講座

生涯教育の拡充に注力

京都薬科大学 第三者機関から認証取得

「薬剤師の育成は大学の使命」

京都薬科大学は、このほど薬剤師認定制度認証機構(CPC)から認定薬剤師研修機関の認証を取得した。以前に比べ、量とも向まされた生涯教育を、018年度から開始する。臨床と基礎の融合を意識した講義を導入するほか、フジ



後藤学長

CPCは、薬剤師に対する各種生涯学習と認定制度を第三者の視点から評価し、基準に適合する優れた研修認定制度を認定している。現在、30団体の生涯研修認定制度や特定領域認定制度に認定を付与。認定された制度間では研修単位は原則として有効。

臨床と基礎の融合を意識

本気度を増した京都薬大が提供する18年度の生涯教育プログラムは、前年度に比べて2つが追加される。一つは方向性は、生涯教育の質を高めること。その一環として臨床と基礎の融合を意識した講義の導入を試みる。

臨床研究実施を後押し

プログラムの柱として3日間9講義を行う「卒後教育講座」。18年度は感染症領域の臨床と基礎を融合させた講義を展開する。6月17日の第2回講演には、京都薬大臨床薬剤投与の村木優一教授が「薬剤耐性(AMR)対策に薬剤師として関わるために必要なTips」を

会での成功を」と強調。卒業後も科学の進歩は急速に進んでいる。受講者が最新の情報を十分に理解できるように、生涯教育の質を高めたいと考えている。

京都薬大の生涯教育の歴史は古い。同窓会組織の京薬会との共催で卒後教育講座を開講したのは約40年前に遡る。以後、その体制で長期運営してきたが11年に生涯教育センターを学内に設置。センターが生涯教育を主導する形に改めた。生涯教育を重視する姿勢を体現化したものだ。その流れをさらに加速させるために今回、CPCの認証を取得した。

経疾患、高血圧症、免疫・アレルギー疾患をテーマに、臨床現場の医師や薬剤師が各領域の最新の話

を、提供し、知識の整理を促す。日々の業務に役立つだけでなく、18年度から本格化する、改訂7

ため、生涯教育プログラムに加えた。4日間で計12講義を展開。経験に関わらず薬方を学びたい意欲を持った薬剤師を対象に、漢方治療の基礎から臨床まで幅広く学べる内容になっている。

さらに、場所や時間を問わず自己学習できるeラーニング講座の配信コンテンツ数を大幅に増やす。これまでは録画した卒後教育講座の直前1年分をウェブサイト上で提供していた。18年度以降は、基本的に過去5年分の卒後教育講座を閲覧できるようにする。配信期間も11月1日から翌年1月末までに延長。閲覧回数の制限も撤廃する。

これらの改革によって生涯教育プログラムのボリュームは約2倍に拡大。eラーニング講座も含めて単位数は約3倍になるという。

の一番の目的は、臨床現場の薬剤師にサイエンスの土壌や基礎を作り上げてもらうこと」と強調。

「将来、計数調節などは自動化される可能性があるので、その時に薬剤師の仕事として何が残るのか。サイエンスを実践する薬剤師が生き残ると思う。将来を先読みして、今後柔軟に生涯教育の内容を変えていきたい」と話している。

<問合せ先>

京都薬科大学 生涯教育センター

*URL: <https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

*E-mail: skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

*TEL: 075-595-4677 (平日 9:00~16:00)

*FAX: 075-595-4683



教務課

2018年4月13日（金）午前10時から創立130周年記念館において、病院・薬局での実務実習を直前に控えた5年次生350名を対象に、白衣授与式を開催いたしました。

式典では、5年次生の代表者2名が学長から白衣を授与された後、全員が校章と大学名の入った白衣を着用しました。その後、後藤学長から式辞、矢野臨床薬学教育研究センター長から「実務実習に向けた心構え」、教育後援会を代表して謝宏二会長から挨拶が述べられました。

最後に5年次生の代表から「患者さんの気持ちを汲み取る温かい心をもち、個々の患者さんに適切な医療を提供するために何をすべきか、どう向き合うべきか

を学び、考えたい」との誓いの言葉が述べられ、閉式となりました。



白衣授与式の様子

卒業生からのメッセージ

大学での勉学について

山本 雄也



2014年 学部卒業
(臨床腫瘍学分野)

奈良県庁
福祉医療部医療政策局
薬務課 薬事・献血係
主任技師

私は奈良県で公務員をしています。病院や薬局で働く薬剤師といえば、薬学部にいればどのような仕事をしているか想像に難くないでしょう。では、地方公務員として働いている薬剤師といえば、どんな仕事をしているかご存知でしょうか。自治体によって様々ですが、奈良県において薬剤師は、薬事や食品衛生等に携わる本庁の行政の職員として、また保健所職員や研究所職員など、様々な形で職能を発揮しています。

私は進路を決める際、故郷の奈良県に薬剤師として貢献したいと考え、卒業後、奈良県庁に薬剤師職として入庁しました。最初は奈良県保健研究センター（地方衛生研究所）に配属され、農作物や、食肉中の農薬等の残留分析等、食品に関する検査・研究業務に携わりました。その後、県庁の保健予防課に異動、そこでは、感染症まん延防止対策や予防接

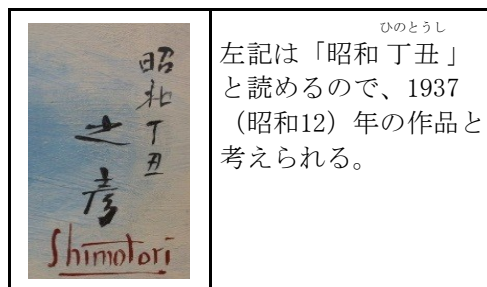
種に関係する業務に携わり、現在は薬務課で、薬局、医薬品・医療機器販売業等に係る許認可業務や、献血の推進に関する業務に携わっています。

そんな私の学生時代、学生の本文は学業ということで勉学についてお話させていただくと、勉強することはつらいと感じており、早く勉強から解放されたいとずっと思っている学生でした。しかし、いざ公務員となってみると職務遂行に必要な知識は、これまで大学で勉強したこと、すなわち化学や衛生学、感染症学や微生物学、薬事法規など、直接業務で関わる内容はもちろん、他にも当時学んだ多くの科目や実務実習、研究室での経験などが様々に結びついており、無駄ではなかったと気付かされ、今にしっかりと活かせていると感じています。勉強に追われる毎日に嫌気が差し、学生の時には勉強の重要性には気付いていませんでしたが、今では、当時のつらい思い出も良い思い出となっています。

私の学生時代のように勉強がつらいと感じている方もいるかもしれませんが、皆さんの今やっていることは決して無駄ではありません。「何でこんなことを勉強しているのだろう」と感じられる科目でも、薬剤師として働くのであればどんな形であれ、必ず役に立ちます。社会に出れば、勉強以外にも様々なつらいことや困難なことに遭遇する時がありますが、勉強のつらさを乗り越えた自信は必ず、困難に立ち向かう礎になるはずです。学生の皆さん、日々勉学に励み、自身の思い描く立派な薬剤師を目指してください。



作品名 「牡丹」
 作者 霜鳥之彦
 規格 油彩
 縦1,000mm
 横1,258mm



霜鳥之彦（しもとり ゆきひこ 1884～1982年 東京市神田区出身 洋画家 本名 小西正三郎）。中学生の頃に浅井忠（明治の印象派の大家）の図画教科書によって水彩画を独習しており、1902年京都高等工芸学校（現京都工芸繊維大学）の設立と浅井の教授就任を知り、浅井を追いかけるように同校に入学し浅井に師事、1905年同校図案科の第一期卒業生となる。卒後に渡米し、1909年から1920年までニューヨークのアメリカ自然史博物館にて標本模型制作のための写生と色彩に関する技術員として勤務。1920年の帰国後、京都高等工芸学校講師、翌年教授に就任、同年文部省留学生として絵画、図案学研究の目的で渡欧する。帰国後、母校の教授を退官、戦後は京都学芸大学（現京都教育大学）教授となる。京都府美術工芸功労者、1970年関西美術院理事長、1972年勲三等瑞宝章。

本作品は、2017年8月の調査において発見されたもので、誰もがその存在を知らなかった作品である。キャンバスの右上に制作年（昭和 丁丑：1937年）と霜鳥のサイン（之彦Shimotori）が見えるが、その他に記録は残っておらず、本作品を本学が所蔵するに至った経緯等についても不明である。

開館日程

図書館

2018年7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2018年8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2018年9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

8:30-21:00
10:00-17:00
8:30-17:00
休館
休館=館内整備

主催：文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

共催：一般社団法人京都府薬剤師会

市民公開講座「前立腺がん」開催

Event

がんプロプログラムコーディネーター／臨床薬学教育研究センター 講師 本橋 秀之

日時：2018年2月24日（土）14：00～16：20

場所：京都薬科大学 愛学館3階 愛学ホール

参加者数：134名

（一般78名、学部生36名・大学院生5名、職員15名）

概略：本市民公開講座は文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランの主催で、一般の方に加え、大学院生、学部学生に向けて前立腺がんについての講演を行った。

内容：まず本学後藤直正学長から、本公開講座が参加されている方々にとって有益であることを願うとともに自身も一緒に勉強したいとの開会の挨拶があった。

講演1では三重大学医学部附属病院薬剤部の小田都紀子薬剤師から「前立腺がんの治療に使用するくすり」と題した講演があった。はじめに前立腺がんの基礎知識についてわかりやすく説明があった。続いて前立腺がんの治療に用いられる薬物について用いられる時期や薬効ごとの分類について解説された。さらに治療時の注意点などについて、専門的な知識が無くても平易に理解できる非常に丁寧な説明をいただいた。また間違った薬の情報に惑わされないように一般の方への注意もされた。質疑では患者の方からも薬の使い方についての質問がなされ、やさしく丁寧にお答えいただいた。

講演2は滋賀医科大学泌尿器科学講座の河内明宏教授から「前立腺がんの診断と治療」と題して疾患全体について興味深い講演がなされた。まず前立腺の組織としての説明と前立腺特異抗原など検査について説明された。次に前立腺肥大症との違いや症状の現れかた、臨床での病期についての解説があった。これらを踏まえて、手術、放射線治療、薬物療法など全ての治療法について順番に説明があった。最後に最新のロボット手術「ダビンチ」について実際の映像を交え紹介があった。一般の方にも非常にわかりやすく、かつ薬学生、薬剤師にも有益な内容だった。質疑では一般の患者の方から治療法や罹患後の生活などについて質問があった。

最後は芦原教授の閉会の辞で来年のセミナーについて言及されセミナーは終了した。

※当日実施しましたアンケート結果は、本学WEBサイトに掲載しております。



小田 都紀子 先生



河内 明宏 先生

主催：文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

キャリアパスセミナー／臨床薬学研究者養成セミナー 開催

Event

がんプロプログラムコーディネーター／臨床薬学教育研究センター 講師 本橋 秀之

日時：2018年1月28日（日）13：00～16：00

場所：京都薬科大学 愛学館3階 愛学ホール

参加者数：65名（学部生33名・大学院生9名、職員19名、滋賀医大4名）

概略：本キャリアパスセミナーおよび研究者養成セミナーは文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランの主催で、大学院生および学部学生に向けて啓発活動の一環として行われた。

内容：まず本学副学長（研究科長）赤路教授の開会の挨拶で、新たながんプロが本年度からは始まっていることが紹介された。

一般講演の1演題目は本学薬物動態学分野の伊藤由佳子講師から「5-FU 代謝酵素に着目した膀胱癌におけ

る FOLFIRINOX 治療効果予測因子に関する検討」との講演があった。まず基礎研究において 5-FU による代謝酵素の誘導について研究成果を発表された後、岡山大学と共同で実施されている臨床研究について講演された。薬物動態を考慮した化学療法の適正化に貢献する研究内容であった。



ラウンドテーブルディスカッション風景

2演題目は滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部の野田哲史先生から、大学を卒業後これまでのご自身のキャリアについて講演があった。研究内容では特に分子標的薬の副作用と遺伝子多型との関連や抗がん剤の適正使用について発表された。さらに滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部に入局後に担当された業務の紹介や学位を志したきっかけ、社会人、大学院を続ける上での苦労などをお話しいただいた。

特別講演では滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部の寺田智祐教授・薬剤部長から、これまでのご自身のキャリアについて研究内容にも触れながら紹介いただいた。京都大学医学部附属病院での研究、留学中の研究と出会い、滋賀医科大学での業務・研究の取り組みについてご紹介いただき、これから学位や薬剤師を志す院生・学部生に貴重なメッセージをいただいた。

講演後、同会場において演者3名の先生と参加者とのラウンドテーブルディスカッションをおこなった。フロアからはこれからの将来設計に向けた不安や注意すべき点など学生からの率直な疑問が呈された。演者の先生からは厳しくも暖かくそれぞれの質問に真剣にお答えいただいた。

最後は芦原教授の閉会の辞でセミナーは終了した。



赤路 健一 副学長



伊藤 由佳子 講師



野田 哲史 先生



寺田 智祐 先生

主催：創薬科学フロンティア研究センター

共催：文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

創薬科学フロンティア研究センター講演会 開催

Event

がんプロコーディネーター／病態生理学分野 教授 芦原 英司

日時：2018年2月16日（金）13：30～17：00

場所：京都薬科大学愛学館3階愛学ホール（A31講義室）

参加者数：104名（学部生：77名、大学院生：6名、

教職員：18名、本学以外：3名）

概略：本セミナーは創薬科学フロンティア研究センターの主催、文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランの共催にて、大学院生および学部学生に向けて啓発活動の一環として行われた。

内容：後藤学長からの開会の辞に引き続き、京都工芸繊維大学・セラミック物理学研究室教授のGiuseppe Pezzotti先生から「The importance of Raman spectroscopy in diagnostics and its future developments」とのご講演をいただいた。ラマン分光の基礎から基礎研究への応用、臨床応用まで幅広いお話しをいただき、最後にはラマン分光を用いた簡便な診断技術開発への将来展望にまで触れたご講演であった。

2演題目として、京都大学医学部附属病院・放射線部准教授の中本裕士先生に「放射性薬剤を用いて病気を診る・治す」と題してご講演いただいた。

”Theranostics”の概念を軸にソマスタチン受容体やPSMAを標的とした放射性薬剤を用いる診断と治療法について実際のイメージング画像をお示しいただきながら、最先端の臨床研究の現状をご説明いただいた。

続いて、国立循環器病研究センター・画像診断医学部

部長の樋口隆弘先生から「分子イメージングとトランスレーショナルリサーチ」と題して、基礎研究から臨床研究への懸け橋としての心臓PET分子イメージングの最新技術をご紹介いただいた。

次に、本学放射性同位元素研究センターの河嶋秀



後藤学長



Giuseppe Pezzotti 先生



中本 裕士 先生



樋口 隆弘 先生

和准教授から「薬学領域における放射性同位元素を用いた研究の現状と展望」と題し、薬学領域で活用されている放射性同位元素及び放射性分子プローブについて概説いただき、基礎研究の実情と本学における今後の研究展開についてお話をいただいた。これらイメージング技術が、がん研究、がん臨床に深く浸透し、すでに応用されていることが、聴講した学部生、大学院生、本学教員もよく理解できるお話であった。

最後に、創薬科学フロンティア研究センター、研究科長である赤路健一副学長から、イメージング技術に対する薬学研究者の関わりの重要性の話があり、本学でも今

後展開していく旨、説明があり、閉会となった。



河嶋 秀和 准教授



赤路 健一 副学長

第9回「KPUシンポジウム」開催

Event

KPUシンポジウム実行委員長

2018年5月2日（火）、京都薬科大学・躬行館T31講義室において、第9回KPUシンポジウムを開催しました。特別講演のお1人目として、東京大学医学部の小田吉哉先生をお迎えして、「生体試料分析の面白さと難しさ」という演題で、ご自身の幅広い分野（製薬企業の研究職、基礎薬学の研究者）でご活躍されてきた経験をもとに、新しい疾患治療標的を目指した新薬を開発する際に、診断用バイオマーカーの探索と確立がいかに重要となるかをご講演いただきました。特別講演のお2人目として、本学出身の濱 宏仁先生をお迎えして、「次世代に求められる臨床薬剤師像について」という演題で、ご自身の幅広い臨床領域でご活躍されてきた経験をもとに、病院薬剤師が現在から今後の臨床

現場で携わるべき、かつ果たすべき幅広い対象や職域を含めてご講演いただきました。一般公演として新任もしくは最近着任された本学の教員（田中教授、古田教授、村木教授）から3題の講演をいただきました。合計302名の多くの学生や教員の方々にご参加くださいました。シンポジウム終了後の茶話会では17時30分頃まで、講演者や運営委員の先生方を囲んで学生を中心に熱心に質問が飛び交っておりました。

今回も座長の先生方をはじめ多くの先生方からの多大なご協力を頂きましたことを深謝致しますとともに、今後とも引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

■ シンポジウムにおける講演の様子



東京大学 医学部
特任教授 小田 吉哉 先生



神戸市立医療センター
西市民病院 薬剤部
副薬剤部長 濱 宏仁 先生



講演風景



薬理学分野
田中 智之 教授



薬化学分野
古田 巧 教授



臨床薬剤疫学分野
村木 優一 教授

■ シンポジウム概要

日時：2018年5月2日（火） 13：30～17：00
場所：京都薬科大学・躬行館3階 T31講義室

開会の挨拶

後藤 直正 学長

特別講演1 13：35～14：15（座長：代謝分析学分野 安井 裕之 教授）
「生体試料分析の面白さと難しさ」

東京大学医学部 特任教授 小田 吉哉 先生

特別講演2 14：15～14：55（座長：臨床薬学教育研究センター 中村 暢彦 講師）
「次世代に求められる臨床薬剤師像について」

神戸市立医療センター西市民病院 薬剤部 副薬剤部長 濱 宏仁 先生

一般講演1 15：15～15：35（座長：臨床腫瘍学分野 中田 晋 准教授）
「マスト細胞の多様性とその機能」

田中 智之 教授（薬理学分野）

一般講演2 15：35～15：55（座長：生薬学分野 中村 誠宏 准教授）
「独自の触媒で挑む高選択的有機合成」

古田 巧 教授（薬化学分野）

一般講演3 15：55～16：15（座長：臨床薬学教育研究センター 本橋 秀之 講師）
「リアルワールドデータを利用した我が国における抗菌薬使用動向の把握」

村木 優一 教授（臨床薬剤疫学分野）

閉会の辞

第9回KPUシンポジウム実行委員長 安井 裕之 教授

News クラブだより

ラグビー部

誇りを胸に

我々、京都薬科大学ラグビー部は春の医歯薬大会、秋のリーグ戦に向け、日々厳しい練習に励んでいます。

ラグビーは15人で行うスポーツで、全員がお互いを信じ、仲間のために体をはり、ボールを繋いで勝利を目指します。この信じる力こそラグビーの精神であると思います。特に京都薬科大学ラグビー部はコミュニケーションに重きを置き、上下年次生を問わず意見を共有するようにしています。それ故に、他の部活と比べ上下年次生の繋がりがとても強いのが魅力の一つです。

また、遊びにも本気なのがラグビー部の魅力でもあります。夏には琵琶湖でBBQをしたり、学祭では盛り上げ役として全力で楽しんだり、他にも楽しいイベントがたくさんあります。

部活も遊びも本気でやるならラグビー部へ！

マンドリン部

こんにちは。マンドリン部です。マンドリン部はマンドリン、マンドラ、セロ、ギター、コントラバスの五種の楽器でオーケストラを組み演奏しています。大学から楽器を始めた部員がほとんどですが、部員同士で協力して練習し、技術顧問の先生の指導を受けるなど意欲的に取り組んでいます。現在は記念定期演奏会に向けて、猛練習中です。90回目となる節目の演奏会ということで今から緊張していますが、お互い支え合って良いものを作り上げていきたいと思えます！第90回定期演奏会は10月8日（月・祝）に高槻現代劇場で開催します。Twitterでも情報を発信しているので、是非覗いてみて下さい。 @kpu_mandolin

ソフトテニス部

活動実績

関西医歯薬ソフトテニス大会

男子団体 1回戦進出

女子団体 2回戦進出

個人戦 男子 森山・西澤ペア3回戦進出

藤堂・吉澤ペア2回戦進出

女子 阿部・山下ペア2回戦進出

上月・高橋ペア2回戦進出

小谷・太田ペア2回戦進出

個人戦は雨天のため中止

今後の予定

5月 四薬戦

8月 関西薬学生ソフトテニス大会

8月 全国薬学生ソフトテニス大会

11月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

4月 関西医歯薬ソフトテニス大会

管弦楽部

こんにちは。管弦楽部です。私たちは経験の有無を問わず様々な学生が集まり定期演奏会を大きな目標として日々楽しくみんなで活動しています。今年も第46回定期演奏会を11月23日に文化パーク城陽で行い、のだめで有名なベートーヴェンの交響曲第7番をメインに演奏します！現在は新たな新入部員と練習し始めたばかりで、ここからどれだけ良い音楽にできるかが楽しみです！

《試験日程》

2018年度の試験日程は【表1】のとおりです。シラバスをよく読み、各学年とも進級・卒業要件を確認してください。時折、試験日時を間違えるケースが見受けられます。各自注意して試験に臨んでください。

再試験の受験手続は、指定の手続期間に必ず行ってください。手続時に発行する「再試験受験許可書・領収書」は、再試験を受験する際に必要です。紛失しないように大切に保管してください。万が一紛失した場合は、再試験受験までに教務課で再発行を受けてください。

人と文化選択科目の不合格科目については、再試験手続をしなかった場合、放棄とみなします。放棄科目については、履修した年度内は平均点に算入されますが、翌年度以降は平均点の算出対象外となります。シラバス「学修の手引き」のページにも、試験制度の詳細や受験にあたっての心得が掲載されていますので、よく読んでください。

【表1】

年	試 験	試験期間	合格発表等	手続期間
2018	1～4、6年次生 前期試験	7月20日(金)～31日(火)	8月22日(水)に発表予定 (Web公開)	—
	2～4年次生 前年次科目再試験	8月31日(金)～9月5日(水)	成績通知書を配付	4月19日(木)・20日(金)
	1～4年次生 前期科目再試験	9月6日(木)～12日(水)	成績通知書を配付	8月23日(木)・24日(金)
	6年次生 前期科目再試験Ⅰ	8月31日(金)～9月5日(水)	9月13日(木)に発表予定 (Web公開)	8月23日(木)・24日(金)
	6年次生 前期科目再試験Ⅱ	9月20日(木)・21日(金)	成績通知書を配付	9月14日(金)・18日(火)
	4年次生 薬学共用試験/OSCE本試験	12月15日(土)・16日(日)	発表・手続方法については掲示等でお知らせします	
2019	6年次生 アドバンスト薬学本試験	1月9日(水)・10日(木)	1月18日(金)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 後期試験	1月16日(水)～18日(金)	1月28日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	1～3年次生 後期試験	1月18日(金)～28日(月)	2月12日(火)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 薬学共用試験/CBT本試験	1月24日(木)・25日(金) ※いずれか1日を受験	発表・手続方法については掲示等でお知らせします	
	6年次生 アドバンスト薬学再試験	1月30日(水)・31日(木)	卒業査定会終了後に 成績通知書を配付	1月21日(月)・22日(火)
	4年次生 後期科目再試験	2月5日(火)～2月8日(金)	2月15日(金)に発表予定 (Web公開)	1月29日(火)・30日(水)
	1～3年次生 後期科目再試験	2月21日(木)～28日(木)	進級査定会終了後に 成績通知書を配付	2月13日(水)・14日(木)
	4年次生 前・後期科目再試験Ⅱ			【前期科目】 1月29日(火)・30日(水) 【後期科目】 2月18日(月)・19日(火)
	4年次生 薬学共用試験/CBT追・再試験	3月5日(火)	発表・手続方法については掲示等でお知らせします	
	4年次生 薬学共用試験/OSCE追・再試験	3月7日(木)		

《成績通知・合格発表日程》

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～2年次生は学生相談員から、3～6年次生は分野主任から、学生証提示の上、受け取ってください。代理受取はできません。

なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区 分	年 次	配付日程	保証人(父母)への送付
前期終了時の成績通知書	1～4年次生	10月1日(月)～9日(火)	10月下旬
	6年次生	10月5日(金)～12日(金)	
後期終了時の成績通知書	6年次生	2月14日(木)～ (卒業査定会終了後に配付)	—
	1～5年次生	3月20日(水)～ (進級査定会終了後に配付)	4月中旬～下旬

採用

創薬科学系薬化学分野 教授 古田 巧
病態薬科学系薬理学分野 教授 田中 智之
統合薬科学系 教授 高田 和幸

(以上 任期：2018. 4. 1～2028. 3. 31)

(特命教員)

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター

特命教授 小川 賀偉

特命教授 辻本 喜則

(以上 2018. 4. 1～2019. 3. 31)

事務局企画・広報課

事務員 仲達 依子

事務局庶務課

事務員 石原 由季

事務局学生課

事務員 辻 美帆

事務局進路支援課

事務員 西村 裕世

(以上 2018. 4. 1付)

(契約職員)

事務局施設課

立藤 政信

(契約期間：2018. 4. 1～2019. 3. 31)

再任用

分析薬科学系薬品物理化学分野 講師 濱 進
薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター 講師 中村 暢彦
生命薬科学系微生物・感染制御学分野

助教 林 直樹

(以上 任期：2018. 4. 1～2023. 3. 31)

配置換

事務局庶務課

課長 坂口 義美

(前 事務局調達検収室)

事務局調達検収室

主事 清水 芳美

(前 事務局学生課)

(以上 2018. 4. 1付)

任命

事務局調達検収室室長代理

課長補佐 星野 展宏

(2018. 4. 1付)

兼務

事務局国際交流推進室

事務員 辻 美帆

(事務局学生課)

(2018. 4. 1付)

出向

事務局企画・広報課

主事 北田 彩

(日本私立学校振興・共済事業団)

(2018. 4. 1～2019. 3. 31)

退職

病態薬科学系薬物治療学分野 講師 天ヶ瀬紀久子

生命薬科学系公衆衛生学分野 講師 長谷井友尋

薬学教育系教育研究総合センター

薬学教育研究センター

助教 高橋 由佳

薬用植物園

助手 前田 晋作

(以上 2018. 3. 31付)

任期満了

(特命教員)

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター

特命教授 石津 雅弘

特命教授 小林千代子

特命教授 中嶋 澄江

(以上 2018. 3. 31付)



入試課

2019年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。受験生や高校生向「大学案内」「DATA BOOK」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

1. 入学定員・募集人員

学部	学科	入学定員
薬学部	薬学科	360名

	特別選抜 推薦入学		一般選抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (センター前期)	一般B方式 (一般入試)	一般C方式 (センター後期)
募集人員	50名	80名	45名	180名	5名
出願資格	高等学校長へ通知	2019年3月卒業見込者および2018年3月卒業者* 評定平均値3.2以上	2019年3月卒業見込者 および 既卒者		

※文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2018年3月修了者および2018年4月以降2019年3月末までに修了または修了見込者を含みます。＜出願資格については、それぞれの入学試験要項で確認してください＞

2. 入学試験関係日程

	推薦入学		一般A方式	一般B方式	一般C方式
	指定校制	一般公募制	センター前期 (個別試験なし)	一般入試	センター後期 (個別試験なし)
出願期間	2018年11月1日(木) ～2018年11月7日(水) 必着	2018年11月1日(木) ～2018年11月7日(水) 当日消印有効	2019年1月7日(月) ～2019年1月18日(金) 当日消印有効	2019年1月7日(月) ～2019年1月23日(水) 当日消印有効	2019年2月22日(金) ～2019年3月6日(水) 当日消印有効
試験日	2018年11月12日(月)	2018年11月17日(土)	2019年1月19日(土) 2019年1月20日(日)	2019年2月3日(日)	2019年1月19日(土) 2019年1月20日(日)
合格発表日	2018年11月27日(火)		2019年2月15日(金)	2019年2月15日(金)	2019年3月13日(水)
入学手続 期限	2018年12月14日(金) 必着 入学金・授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限		2019年2月22日(金) (入学金納付期限)	2019年2月22日(金) (入学金納付期限)	2019年3月22日(金) (入学金納付期限)
	2019年3月22日(金) 必着 授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限				

3. 検査項目等

推薦入学 (指定校制)
面接および調査書を基に総合的に判定します。

推薦入学 (一般公募制)	配点
適性検査 Ⅰ：英語 [コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、 コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ]	100
Ⅱ：化学 [化学基礎、化学]	100
面接	40
調査書 (国語と数学の評定平均値の合計×2)	20
ただし、一定基準に達しない検査項目があれば、不合格になることがあります。	

	一般A方式 (センター前期)	配点
数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語 [リスニングの成績は利用しません]	200
国語	国語 [近代以降の文章のみ利用します]	100
理科	化学 [必須]、物理、生物から1科目 [選択]	200

	一般B方式 (一般入試)	配点
数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B [数列、ベクトル]	200
外国語	英語 [コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、 コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ]	200
理科	化学基礎、化学	200

	一般C方式 (センター後期)	配点
数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語 [リスニングの成績は利用しません]	200
理科	化学 [必須]、物理、生物から1科目 [選択]	200

4. 試験場

京都薬科大学キャンパス

【詳細については入学試験要項をご確認下さい】

お問い合わせ：〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 京都薬科大学 入試課
TEL 075-595-4678 / FAX 075-583-2232 / ホームページ <https://www.kyoto-phu.ac.jp>

	薬学専攻 博士課程(4年制)	薬科学専攻 博士後期課程(3年制)	備 考
募集人員	(一般入試、社会人入試) 10名	(一般入試、社会人入試) 2名	
募集分野等	(募集分野等、協力分野) 24分野等	(募集分野、協力分野) 14分野	協力分野においても研究指導を受ける事ができる
出願資格	(1) 大学(6年制薬学部)を卒業した者(2019年3月末日までに卒業見込者を含む) (2) 外国において学校教育における18年の課程(最終の課程は薬学)を修了した者(2019年3月末日までに修了見込者を含む) (3) 大学(4年制薬学部)を卒業後、社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上の実務経験を有し、かつ、薬剤師免許を有している者で、本学大学院における入学資格審査において、第1号の者と同等以上の学力があると認めた者 (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、第1号の者と同等以上の学力があると認めた者	(1) 薬学系(薬学、臨床薬学又は薬科学)又は理科系の修士の学位を有する者(2019年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (2) 外国において前号と同等の修士の学位に相当する学位を有する者(2019年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (3) 大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、本学大学院における入学資格審査において、第1号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者 (4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、第1号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者	<薬学専攻> 募集分野等 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、衛生化学分野 微生物・感染制御学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 病態生化学分野、薬物治療学分野 臨床薬理学分野、薬理学分野 臨床腫瘍学分野、薬剤学分野 薬物動態学分野、臨床薬学分野 臨床薬剤疫学分野、統合薬科学系 臨床薬学教育研究センター (協力分野) 薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 公衆衛生学分野 <薬科学専攻> 募集分野 薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 公衆衛生学分野 (協力分野) 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 薬理学分野、薬剤学分野、統合薬科学系
主な出願書類	(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{※1} (3) 卒業論文及び卒業論文の要旨(英文可) ^{※2} (4) 志願者名票・受験票 (5) 出願資格(3)の者は薬剤師免許の写し (6) 卒業・修了(見込)証明書 ^{※1} (7) 出願資格(2)の者は住民票 ^{※3}	(1) 入学願書 (2) 成績証明書 ^{※1} (3) 修士論文及び修士論文の要旨(英文可) ^{※2} (4) 志願者名票・受験票 (5) 研究業績録 (6) 修了(見込)証明書 ^{※1} (7) 出願資格(2)の者は住民票 ^{※3}	※1 本学卒業・修了(見込)者を除く ※2 卒業・修了見込者は卒業研究の概要(2,000字以内)1部(英文可) ※3 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集) 2018年7月 6日(金) ～ 2018年7月20日(金) [必着] (冬季募集) 2019年1月 8日(火) ～ 2019年1月15日(火) [必着]	
	試験日	(夏季募集) 2018年8月21日(火) (冬季募集) 2019年1月29日(火)	
	合格発表日	(夏季募集) 2018年8月27日(月) 午後(予定) (冬季募集) 2019年1月29日(火) 午後(予定)	
	入学手続期限	2019年3月15日(金) 入学金納付期限 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限	
選考	面接試験	専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	専攻に必要な研究能力について、修士論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。

★出願に関する問い合わせ先

事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

		一 般 入 試	社 会 人 入 試	備 考
募集人員		5 名		(募集分野)
		若干名	若干名	
募集分野		薬科学専攻 14分野	薬科学専攻 14分野	薬化学分野、薬品製造学分野 薬品化学分野、生薬学分野 薬品分析学分野、代謝分析学分野 薬品物理化学分野、公衆衛生学分野 細胞生物学分野、生化学分野 病態生理学分野、薬理学分野 薬剤学分野、統合薬科学系
出願資格		(1)大学を卒業した者(2019年3月末日までに卒業見込者を含む) (2)2019年3月末日において大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められる者 (3)外国において学校教育における16年の課程を修了した者(2019年3月末日までに修了見込者を含む) (4)本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者	大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において1年以上の実務経験を有する者	
主な出願書類		(1)入学願書 (2)成績証明書 ^{※1} (3)志願理由書 (4)志願者名票・受験票 (5)出願資格(3)の者は住民票 ^{※2} (6)卒業(見込)証明書 ^{※1}	(1)入学願書 (2)成績証明書 ^{※1} (3)志願理由書 (4)志願者名票・受験票 (5)実務実績書 (6)卒業証明書 ^{※1}	※1 本学卒業・修了(見込)者を除く ※2 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	2018年7月6日(金)～2018年7月20日(金) [必着]		
	試験日	2018年8月21日(火)		
	合格発表日	2018年8月27日(月) 午後(予定)		
	入学手続期限	2018年9月14日(金)入学金納付期限 2019年3月15日(金)授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限		
試験科目	外国語(英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	_____	
	薬学専門	I～VI系 [*] の14問題から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)		[*] I系 創薬科学系 薬化学分野、薬品製造学分野 薬品化学分野、生薬学分野 II系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野 薬品物理化学分野 III系 生命薬科学系 公衆衛生学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 IV系 病態薬科学系 薬理学分野 V系 医療薬科学系 薬剤学分野 VI系 統合薬科学系
	小論文他	_____	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
	面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問	【学識、説明能力、自覚・意欲】

★出願に関する問い合わせ先

事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

本学では、授業の改善を目的とした学生による授業評価をセメスター毎に実施しています。授業評価の方法として、2002年度から「授業アンケート」を行い、2009年度以降、全学生を対象に実施しています。評価対象となる教員は専任教員および非常勤講師です。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために「リフレクション・ペーパー」を作成しています。全教員のリフレクション・ペーパーは冊子体にして図書館で公開し、閲覧ができるようにしています。これにより、今後の授業改善が積極的に進み、教員および学生にとって有意義な授業が実施されることを期待します。

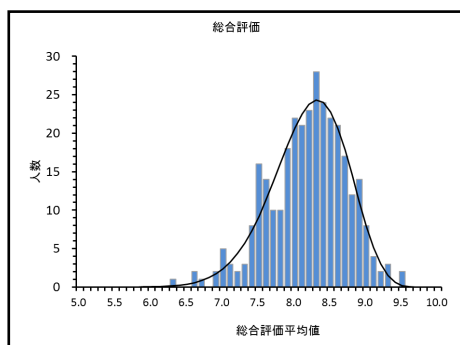
2017年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下のとおり報告します。

◆「教員の授業に関する項目」と、「学生自身の授業での学ぶ態度」について別々に評価をしてもらいました。

■この教員の授業について		2016年度	2017年度
設 問		評価 (5段階)	評価 (5段階)
Q1	授業の到達目標は明確に示されていた。	4.3	4.3
Q2	説明の仕方がていねいでわかりやすかった。	4.2	4.3
Q3	教科書や説明資料は適切でわかりやすかった。	4.2	4.2
Q4	私語や態度の悪い学生に注意するなど、円滑に授業が行われるよう配慮されていた。	4.1	4.1
Q5	授業内容に対する関心を高める工夫がなされていた。	4.2	4.2
Q6	学生の質問や発言を促す工夫がなされていた。	4.0	4.0

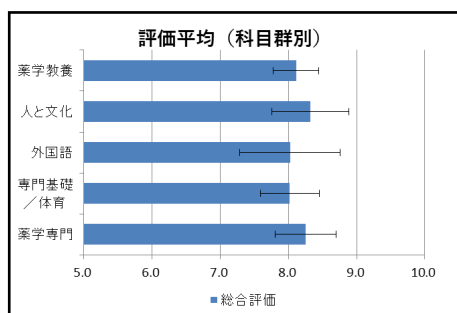
■学生の授業での学びについて		2016年度	2016年度
設 問		評価 (5段階)	評価 (5段階)
Q1	この授業の出席率を教えてください。(100%、90%程度、80%程度、70%程度、60%以下の5段階)	4.9	4.9
Q2	授業外学習をするなど、この授業に対して意欲的に取り組んだ。また、授業が円滑に進行できるよう、私語や居眠りをせず集中して受講した。	4.1	4.1
Q3	シラバス等により、授業内容や到達目標を事前に確認して講義にのぞんだ。	3.8	3.7
Q4	授業の到達目標を達成できた。	3.9	3.9
Q5	授業で学んだことで興味・関心が高まり、これからより深く学びたいと思った。	4.0	4.0
Q6	質問や議論等により、教員や他の学生と積極的にコミュニケーションをとった。	3.8	3.8

◆教員個人別の総合評価の分布は、平均値8.2でした。

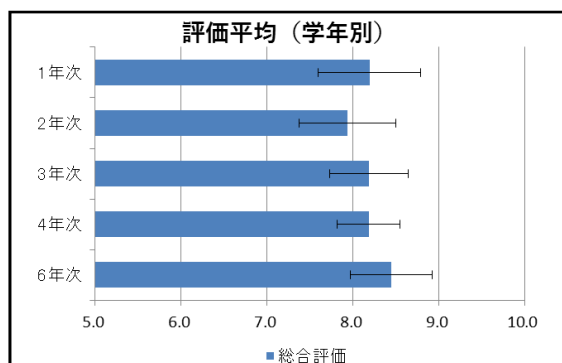


◆授業科目群、学年および職位別の総合評価は以下のグラフのとおりです。

1) 総合評価と授業科目群

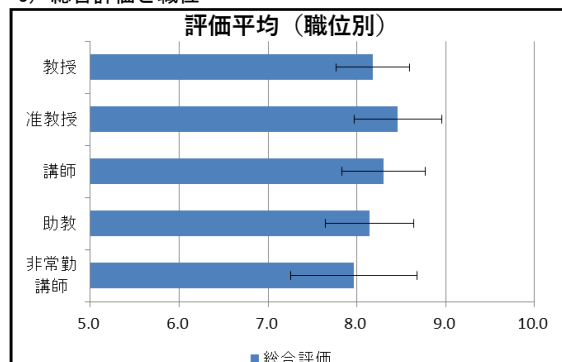


2) 総合評価と学年

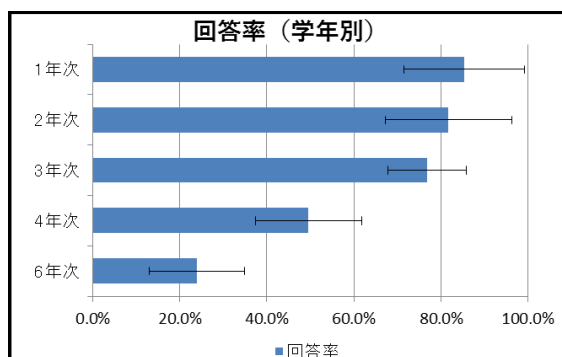


※5年次に授業評価アンケートの対象となる科目はありません。

3) 総合評価と職位



◆学年ごとのアンケート回答率では、学年が上がるにつれて回答率が顕著に減少しました。



最後に、授業アンケートに協力してくれました学生諸君に感謝するとともに、今後の授業改善のために、アンケート回答率の更なる向上を目指したいと思います。授業アンケートは今後も継続して実施しますので、回答への協力をお願いします。また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。

学校法人京都薬科大学2017年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、2018年5月18日開催の理事会で審議・承認され、同日の評議委員会に報告されました。

2017年度は、2017年度から2021年度までを計画期間とする第3期中期計画の最初の年度にあたり、諸事業を展開するためのアクション・プランを策定し、順次取り組んでいます。

主なものとしては、学内共同研究推進のため、統合薬科学系を新設したことや、講義や掲示板等をはじめとした様々な教育の場で活用できる新 LMS(ラーニングマネジメントシステム)「manaba」の導入、学内公衆無線LAN(Free Wi-Fi)の設置等です。また、京薬ブランドを高める広報活動として、戦略的な広報活動を検討するための委員会(2025委員会)を新設しています。

■ 2017年度資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度に行った諸活動に対応するすべての資金の動き(収入と支出の内容)を表すものです。

(単位 千円)

	科目	予算	決算	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,171,200	4,223,815	△ 52,615
	手数料収入	86,200	87,127	△ 927
	寄付金収入	34,000	44,087	△ 10,087
	補助金収入	491,900	439,367	52,532
	資産売却収入	999,800	999,800	0
	付随事業・収益事業収入	35,300	15,552	19,747
	受取利息・配当金収入	172,800	171,886	913
	雑収入	40,600	57,301	△ 16,701
	前受金収入	574,100	610,822	△ 36,722
	その他の収入	700,700	693,090	7,609
	資金収入調整勘定	△ 627,900	△ 596,597	△ 31,302
	前年度繰越支払資金	3,055,900	3,039,967	15,932
	収入の部合計	9,734,600	9,786,221	△ 51,621
支出の部	人件費支出	2,003,100	1,850,765	152,334
	教育研究経費支出	1,569,900	1,310,898	259,001
	管理経費支出	363,000	309,939	53,060
	施設関係支出	60,000	102,807	△ 42,807
	設備関係支出	222,300	127,346	94,953
	資産運用支出	2,114,000	2,107,209	6,790
	その他の支出	809,300	770,261	39,038
	予備費	20,000		20,000
	資金支出調整勘定	△ 239,100	△ 288,690	49,590
	翌年度繰越支払資金	2,812,100	3,495,683	△ 683,583
	支出の部合計	9,734,600	9,786,221	△ 51,621

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

資金収支(収入の部)

学生生徒等納付金収入は、予算額を上回り4,223百万円になりました。寄附金収入、雑収入、前受金収入も予算額を上回っています。

また、資産売却収入は国債の満期償還分となり、予算通りとなっています。

一方、補助金収入は、特別補助金の減額等により439百万円となり、予算額を大幅に下回りました。対前年比で見ると、一般補助が5百万円減、特別補助が14百万円の減となりました。付随事業・収益事業収入は、受託事業、共同研究共に契約件数が伸び悩み、大幅に予算額を下回りました。

資金収支(支出の部)

人件費は、当初計画通りの採用・補充ができなかったため、1,850百万円と予算額を下回りました。教育研究経費は、研究費の繰越し等による未執行分の増加や、光熱水費支出の削減、修繕費等の減少等により、予算額を下回り1,310百万円となりました。管理経費支出も予算額を下回り309百万円となりました。施設関係支出では、統合薬科学系研究室の新設に伴う改修工事、本校地の自動火災報知設備更新工事等で、予算額を上回り102百万円となりました。設備関係支出では、予算額を94百万円下回り127百万円となっています。資産運用支出は、組入計画に基づく組入れや、資産運用収入の繰入れ、国債の満期償還分の繰入などで、2,107百万円となりました。

以上により、翌年度繰越支払資金は、3,495百万円となりました。

■ 2017年度事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該年度（4月1日～翌年3月31日）の経常的活動（教育活動収支、教育活動外収支）及び臨時的活動（特別収支）を区分して、それぞれの事業活動収入と事業活動支出の内容及び基本金組入後の収支均衡の状況を明らかにするものです。また、資金収支計算書はすべての資金の動きを明らかにするものですが、事業活動収支計算書には、資金の収支を伴わない「現物寄付」、「減価償却額」、「退職給与引当金繰入額」なども含めた事業活動収支の状況について把握することを目的としています。

（単位 千円）

		科目	予算	決算	差異	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,171,200	4,223,815	△ 52,615	
		手数料	86,200	87,127	△ 927	
		寄付金	34,000	44,087	△ 10,087	
		経常費等補助金	449,300	439,367	9,932	
		付随事業収入	35,300	15,552	19,747	
		雑収入	40,600	57,493	△ 16,893	
		教育活動収入計	4,816,600	4,867,443	△ 50,843	
	事業活動支出の部	人件費	1,993,000	1,842,911	150,088	
		教育研究経費	2,345,200	2,084,527	260,672	
		管理経費	476,000	419,962	56,037	
		徴収不能額等	0	1,000	△ 1,000	
		教育活動支出計	4,814,200	4,348,401	465,798	
	教育活動収支差額		2,400	519,042	△ 516,642	
	教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	172,800	171,886	913
			その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計			172,800	171,886	913	
事業活動支出の部		借入金等利息	0	0	0	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	0	0	0	
		教育活動外収支差額	172,800	171,886	913	
経常収支差額		175,200	690,929	△ 515,729		
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	52,600	11,059	41,540	
		特別収入計	52,600	11,059	41,540	
	事業活動支出の部	資産処分差額	60,000	66,776	△ 6,776	
		その他の特別支出	0	2,797	△ 2,797	
		特別支出計	60,000	69,573	△ 9,573	
		特別収支差額	△ 7,400	△ 58,514	51,114	
〔予備費〕		20,000		20,000		
基本金組入前当年度収支差額		147,800	632,415	△ 484,615		
基本金組入額合計		△ 603,400	△ 535,585	△ 67,814		
当年度収支差額		△ 455,600	96,830	△ 552,430		
前年度繰越収支差額		926,100	883,226	42,873		
基本金取崩額		0	0	0		
翌年度繰越収支差額		470,500	980,056	△ 509,556		

（参考）

事業活動収入計	5,042,000	5,050,390	△ 8,390
事業活動支出計	4,894,200	4,417,975	476,224

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

教育活動収支

「教育活動収支」は、学校法人の本業である教育研究事業の収支を表しています。

学生生徒等納付金収入（4,223百万円）の経常収入（5,039百万円）に占める割合（学生生徒等納付金比率）は83.8%と大きな比重を占めています。また、補助金収入は、439百万円で経常収入に占める割合（補助金比率）は8.7%です。教育活動収支における事業活動支出においては、人件費（1,842百万円）の経常収入に占める割合（人件費比率）は36.6%です。また、教育研究経費は2,084百万円となり、経常収入に占める割合（教育研究経費比率）は41.4%となりました。以上により、教育活動収支差額は、519百万円となりました。

教育活動外収支

「教育活動外収支」は、経常的な収支のうち教育活動以外の収支で主に財務活動の収支を表しています。

本学は、国債、定期預金等の受取利息・配当金収入のみで、教育活動外収支差額は171百万円となりました。経常収支差額（教育活動収支差額+教育活動外収支差額）は690百万円となり、経常収支差額比率（経常収入に占める経常収支差額の割合）は13.7%となりました。

特別収支

「特別収支」（特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な収支）は、図書の廃棄等により資産処分差額が66百万円となり、特別収支差額は△58百万円となりました。

事業活動収支差額比率

事業活動収入は、5,050百万円、事業活動支出は4,417百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は、632百万円、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）は12.5%となりました。

基本金の組入れと翌年度繰越収支差額

基本金は、第1号基本金に11百万円、第2号基本金には、教育研究総合センター等の整備費として504百万円を組入れました。また、第3号基本金には奨学基金に12百万円を組入れるなど、計535百万円の基本金組入れとなりました。この結果、当年度収支差額は96百万円となり、前年度からの収入超過額883百万円を加え、翌年度繰越収支差額は980百万円となりました。

2017年度貸借対照表

貸借対照表は、決算時における資産、負債、基本金及び収支差額を把握するもので、教育研究に必要な財産を適正かつ安全に保持しているかどうかの財政状態を確認するためのものです。

(単位：千円)

科目		本年度末	前年度末	増減
資産の部	固定資産	32,009,110	31,712,208	296,901
	有形固定資産	14,067,524	14,771,709	△ 704,184
	特定資産	17,893,197	16,881,412	1,011,785
	その他の固定資産	48,387	59,086	△ 10,699
	流動資産	3,609,536	3,143,758	465,778
資産の部合計		35,618,647	34,855,967	762,679
負債の部	固定負債	890,691	900,578	△ 9,866
	流動負債	885,731	745,579	140,151
	負債の部合計	1,776,422	1,646,158	130,264
純資産の部	基本金	32,862,167	32,326,582	535,585
	繰越収支差額	980,056	883,226	96,830
	純資産の部合計	33,842,224	33,209,809	632,415
負債及び純資産の部合計		35,618,647	34,855,967	762,679

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

資産の部

有形固定資産は、設備整備や教育研究用機器備品の購入よりも、機器備品の廃棄及び減価償却額が多かったため、前年比704百万円減の14,067百万円になりました。特定資産は、第2号基本金引当特定資産の計画的組入れ、減価償却引当特定資産への組入れ等により、前年比1,011百万円増の17,893百万円となっています。また、流動資産は、前年比465百万円増の3,609百万円となりました。その結果、資産の部合計は35,618百万円となり、762百万円の増加となっています。

負債の部

負債のうち、固定負債890百万円は退職給与引当金を計上しています。流動負債885百万円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,776百万円となっています。

純資産の部

基本金535百万円を組入れ、基本金の合計は32,862百万円となりました。繰越収支差額は980百万円となり、その結果、純資産の部合計は前年比632百万円増の33,842百万円となっています。

以上



水中でふっふっ

— 第 7 話 —

“と一んとくる”

東京メトロ車内の「お江戸バイリンガル」によれば、「総務の白鳥さんにと一んと来ちゃった (vol. 1)」と。お江戸では“きゅん”ではなく“と一ん”である。▲おかつぱ頭、ちょび髭、ロイド眼鏡で、戦前のパリで活躍した藤田嗣治 (1886-1968)。無表情で乳白色の肌の裸婦、パリの街かど、猫の絵に接したことは何度かある。それらから想像を越えた戦時下での『アッツ島玉砕 (1942)』を見た。暗褐色の絵で、眼を凝らすと死屍累々、銃を握る兵士にドラクロワ画『民衆を率いる自由の女神 (1830)』は微塵もない。▲こんな絵も描くのかと驚いた頃、パリで描かれた藤田嗣治『坐る女 (1929)』にと一んときた。画面は上下二つに分けることができる。上部は金箔地で中央に二羽の雉、下部は床にソファ、それに坐るドレスを着た女性が画面の上下をつないでいる。日本画の伝統的モチーフのみならず、ドレスの文様にさえ誑し(たらし)込みである。日本人であるとの強い意識のもと、浮世絵の美人画を源流とした精緻で流麗な線描と乳白色の肌で、西洋画に挑んだ一作である。この意識が戦争画を描かせたのか？ ▲戦後の美術界で戦争画を描いたことへの陰湿な批判に晒された藤田は、日本人から忘れ去られることを望みパリを目指した。1949年に撮られたバスの窓越しに友の手を握る写真 (林洋子『藤田嗣治 手紙の森へ』講談社文庫)には、得も言われぬ寂寥感が漂っている。フランスに帰化、洗礼。Léonard Foujitaとなり、祖国と訣別した。▲戦争画を描いた藤田の真意に関して、迎合か、芸術か、相反する見方がある。「NHK スペシャル 空白の自伝 藤田嗣治」を企画した近藤史人氏が『藤田嗣治「異邦人」の生涯 (講談社文庫)』の中で藤田の自著、夫人の言を幾ら引用しても、〈真実なんてありはしない。ぼくらの世界は、多重的で多面的で多層的である (森達也『ニュースの深き欲望』朝日新書)〉と感じるのは、虚無的だろうか。『アッツ島玉砕』は私の目には日本人であることを希求した画家の不幸な絵画であり、厭戦画とも、戦意高揚画とも映らない。▲いまパリで(坂本尚志先生情報)、10月から京都で「没後50年 藤田嗣治展」が開催される。藤田嗣治の画業は残された絵で知ることができる。またと一んとくるだろうか。

学長 後藤 直正

平成30年度科学研究費助成事業 採択状況

Report

副学長（研究科長） 赤路 健一

本学研究者の研究資金には、大学から配当される研究費のほか、国などから助成される公的研究費（私学助成金を含む。）、公益財団法人や企業からの研究助成寄付金、共同研究・受託研究契約に基づく企業からの研究費などがあります。

公的研究費は、文部科学省をはじめ厚生労働省、日本医療研究開発機構（AMED）などから助成されていますが、その中でも大きな割合を占めるのが、文部科学省所管の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

下表には代表者のみ記載されていて、分担者として他の大学の先生と共同研究をされている場合は含まれていません。平成30年度は、新規で47件申請して21件が採択されました（新規採択率44.68%）。前年度からの継続分とあわせると、合計採択件数は48件、平成30年度交付予定総額は109,200千円となっています。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。新学術領域および挑戦的萌芽研究は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額 (千円)	新規・継続
基盤研究(B)	小田 真隆	微生物・感染制御学分野	18H02657	新規水溶性糖脂質の細菌性肺炎制御における有効性とそのメカニズムの解明	12,220	新規
基盤研究(B)	濱 進	薬品物理化学分野	18H03540	新規ステルス機能素子によるナノ粒子表面改質と癌微小環境制圧核酸キャリアーの開発	8,580	新規
基盤研究(B)	古田 巧	薬化学分野	18H02554	脂防族アルデヒドの直接的不斉交差アルドール反応の新展開	12,870	新規
基盤研究(B)	斎藤 博幸	薬品物理化学分野	17H03979	アポリポタンパク質の構造異常によるアミロイド繊維形成の分子機構解明と制御法の開発	3,510	継続
基盤研究(B)	赤路 健一	薬品化学分野	16H05104	基質配列の非ペプチド化に基づくプロテアーゼ阻害剤設計戦略の開拓	3,900	継続
基盤研究(C)	武上 茂彦	薬品分析学分野	18K06612	超高感度酵素アッセイシステムの構築を目指した新規脂質ナノ粒子発光デバイスの開発	1,300	新規
基盤研究(C)	藤室 雅弘	細胞生物学分野	18K06642	膜蛋白質の発現制御を標的とするKSHV分子海賊機構	1,820	新規
基盤研究(C)	齊藤 洋平	生化学分野	18K06672	熱ストレスによるStat3活性化と癌悪性化の可能性	1,690	新規
基盤研究(C)	河下 映里	病態生化学分野	18K06708	脳神経再生の高効率化を目指したプロテアーゼ活性制御による移植細胞の生着性の向上	1,170	新規
基盤研究(C)	伊藤 由佳子	薬物動態学分野	18K06765	リキッドバイオプシーによる肺癌化学療法の治療最適化システム	2,210	新規
基盤研究(C)	山本 昌	薬剤学分野	18K06803	アルツハイマー型認知症治療を目標としたインスリン経鼻投与後の新規脳内送達法の開発	1,820	新規
基盤研究(C)	栄田 敏之	薬物動態学分野	18K06804	SGLT2 阻害剤による重篤な皮膚障害の発症メカニズムの解明と予防／治療法の探索	1,300	新規
基盤研究(C)	石原 慶一	病態生化学分野	18K06940	血管機能異常と炎症亢進に着目したダウン症の脳発達遅延機構の解析	2,210	新規
基盤研究(C)	村木 優一	臨床薬剤疫学分野	18K09957	情報源に依存せず、簡便に医薬品の使用状況は見える化できるのか？	2,600	新規
基盤研究(C)	沼尾 成晴	健康科学分野	18K10838	脂防酸結合タンパク質4と運動による脂質代謝亢進との関連	780	新規
基盤研究(C)	野崎 亜紀子	一般教育分野	17K03331	正義論としての集約的意思決定論	780	継続
基盤研究(C)	秋葉 聡	病態生化学分野	17K08322	IIVA型ホスホリパーゼA2活性の細胞種選択的制御によるNASH新規治療戦略の確立	1,820	継続
基盤研究(C)	中村 誠宏	生薬学分野	17K08354	天然薬物を素材としたがん放射線治療における副作用軽減薬の開発	1,560	継続
基盤研究(C)	渡辺 徹志	公衆衛生学分野	17K08396	大気中のバイオエアロゾルと喘息増悪の関係の解明	2,080	継続
基盤研究(C)	長谷川 功紀	共同利用機器センター	17K08749	エストロゲン受容体発現量による予後・治療効果予測法の開発	1,170	継続
基盤研究(C)	木村 寛之	代謝分析学分野	17K10377	線粒体細胞増殖因子受容体を標的としたがんの質的診断用イメージングプローブの開発	1,430	継続
基盤研究(C)	中山 祐治	生化学分野	16K08253	チロシンリン酸化シグナルによる染色体分配制御機構の解明	1,690	継続
基盤研究(C)	長澤 一樹	衛生化学分野	16K08284	うつ病におけるP2X7受容体及び亜鉛を介したシグナリングの協調的連関の変動	1,560	継続
基盤研究(C)	高田 和幸	統合薬科学系	16K08286	アルツハイマー病の細胞治療法の開発に向けた多種幹細胞由来Aβ 貪食細胞の機能解析	1,560	継続
基盤研究(C)	松本 健次郎	薬物治療学分野	16K08287	難治性消化管疾患の病態制御における温度感受性TRPV4チャネルの役割	1,170	継続
基盤研究(C)	松田 久司	生薬学分野	16K08312	抗AGEs作用を基盤とした糖尿病合併症治療薬の開拓	1,690	継続
基盤研究(C)	小島 直人	薬品製造学分野	16K08330	新規抗がん剤の創製を指向したAセトゲン誘導体のTHF環部分の構造活性相関研究	1,170	継続
基盤研究(C)	西口 工司	臨床薬学分野	16K08423	がん微小環境でのビスホスホネート薬の作用解析に基づく食道がん新規治療的探索	1,690	継続
基盤研究(C)	本橋 秀之	臨床薬学教育研究センター	16K08424	大規模データを用いた疾患特異的な副作用解析と科学的根拠にもとづく対策法への応用	1,430	継続
基盤研究(C)	中田 晋	臨床腫瘍学分野	16K08722	Wnt/Shh/低酸素経路の悪循環とクロストークを遮断する脳腫瘍治療標的の同定	1,300	継続
基盤研究(C)	松村 千佳子	臨床薬学教育研究センター	16K08891	患者QOL向上をめざした緩和医療における薬学的支援方法の確立	650	継続
基盤研究(C)	藤井 正徳	薬理学分野	16K09000	アトピー性皮膚炎の痒みにおけるMrgrprの役割の解明	1,170	継続
基盤研究(C)	田中 智之	薬理学分野	16K08231	IgE非依存的なマスト細胞活性化機構	1,430	継続
挑戦的研究(萌芽)	安井 裕之	代謝分析学分野	17K19670	がんTheranosticsを可能にする化合物創製とその高度化利用	3,250	継続
若手研究	小西 敦子	薬品分析学分野	18K14891	非侵襲的生体成分モニタリングを目指した分子鑄型イオン液体ゲルセンサーの開発	1,170	新規
若手研究	渡部 匡史	細胞生物学分野	18K14910	がんウイルスが独自にコードする転写開始前複合体のウイルス生存戦略における意義	2,210	新規
若手研究	森下 得輝	薬剤学分野	18K14928	プロバイオティクス由来腸小胞の機能解明と制御に基づく炎症性腸疾患の新規治療法開発	2,210	新規
若手研究	河瀬 真治	薬物動態学分野	18K14963	PK-PDモデルを用いたスペシャルポピュレーションへの抗がん剤至適投与法の確立	1,430	新規
若手研究	丹羽 里実	薬理学分野	18K14994	前立腺癌の去勢抵抗性獲得におけるカリウムチャネル発現変動の機序解明と臨床応用	1,430	新規
若手研究	屋木 祐亮	代謝分析学分野	18K15566	前立腺がん患者に対するRadio-Theranostics用分子プローブの開発	1,820	新規
若手研究	有光 健治	代謝分析学分野	18K15608	膵β細胞のインスリン分泌障害を早期に検出する分子イメージングプローブの開発	1,820	新規
若手研究	杉本 温子	細胞生物学分野	18K17362	網羅的解析を用いたユビキチン様タンパク質の関わるKSHV溶解感染機構の解明	1,950	新規
若手研究(B)	松本 崇宏	公衆衛生学分野	17K15473	トリテルペンに着目した抗遠伝毒性物質の探索研究	1,300	継続
若手研究(B)	戸田 脩紀	病態生理学分野	17K16197	エクソソーム膜脂質を利用した血液がん細胞へのsiRNA導入技術の開発	1,690	継続
若手研究(B)	内藤 行喜	代謝分析学分野	17K18231	糖尿病治療を目指す亜鉛錯体を含むバイオメタル医薬品の分子メカニズム解明	1,430	継続
若手研究(B)	扇田 隆司	薬品物理化学分野	16K18529	細菌Ⅲ型分泌装置の回転運動に基づくエフェクター分泌機構の解明	1,430	継続
若手研究(B)	峯垣 哲也	臨床薬学分野	16K18964	PARP阻害剤を用いた食道癌セカンドライン化学療法法の構築に関する基礎的研究	1,430	継続
若手研究(B)	林 直樹	微生物・感染制御学分野	16K19129	腸管上皮細胞への指向性を誘起する緑膿菌の感知機構の解析	1,300	継続

■ 5年次生

よねおか ななこ
米岡 那夏子

みなさんは山科駅から地下鉄で3駅先の小野駅近くにある「隨心院」というお寺をご存知でしょうか？



隨心院は平安時代の女流歌人として名高い小野小町が晩年を過ごした場所と言われていることから、毎年11月に「ミス小野小町コンテスト」が開催されています。私は昨年のコンテストで第13代ミス小野小町に選出され、現在1年間の活動を行っています。京都薬科大学の学生として4年間山科に通う中で、私にも何か山科のためにできることはないか？と思ったのが応募のきっかけです。…というところかなり大それた動機に聞こえますが、実際は元々着物を着るのが好きだったことや何に対しても受け身で人前に立つことが苦手な自分の性格を変えたかったことなど、多くのきっかけとタイミング、そして運が重なりミス小野小町になることができました。

隨心院は梅の名所でもあり、毎年梅が見頃になる時期に「はねず踊り」が開催されます。はねず踊りとは隨心院に伝わる小野小町の伝説をわらべうたにして、小野地区の小学生たちがはねず色の小袖を身にまとい舞い踊る行事で、毎年多くの人を訪れます。“はねず”とは薄紅色を表す言葉で、隨心院で見ることのできる遅咲きの梅も「はねずの梅」と呼ばれて親しまれています。ミス小野小町としては、このはねず踊りに参加することが1年間の中でも主な仕事なのですが、京都を離れ、東京・名古屋・博多でも山科の魅力を伝える活動を行っています。また普段は隨心院のPRに留まらず、色々なイベントに参加しています。例えば、東寺弘法市で南警察署一日広報官として自転車マナーの啓発活動をしたり、山科の文化振興のための若者会議に参加したり、桜の季節には琵琶湖疏水観光船の復活記念セレモニーで大津から蹴上にかけて船に乗ったりと内容は様々です。基本的に活動に制限はありませんので、自分がやりたい！と思ったことには挑戦させていただける環境です。もちろん楽しいことだけでなく、辛いと

思うこともあります。啓発活動の中で勇気を出して渡したチラシを受け取ってもらえなければ心が折れますし、取材を受ける度に自分の気持ちをうまく言葉に表せないことをもどかしく思います。さらに夏生まれで寒さに弱い私には、風通しのよい振袖で行った真冬の活動は涙が出るほどの厳しさでした。

しかし、それ以上に私一人の力では決してできなかった経験をたくさんさせていただけることに感謝の気持ちでいっぱいです。今まで目立つことが苦手で、できることならば静かに過ごそうと思ってきた私ですが、京都薬科大学に通い、サークル活動や2年次でのMCPHS短期留学、研究室での生活を通して多くの経験を積んだことで、少しずつ自分自身を外に表現していくことができるようになりました。今は大好きな着物を着て、多くの方とお話しし、自分の世界が広がっていく感覚を味わう度に、あの時コンテストに応募して良かったと心から思います。ミス小野小町としての活動は11月末までとなりますが、任期終了後も自分で自分の限界を決めずに色々なことに挑戦していきます。

もしこれを読んでいる皆さんの中で、以前の私のように何かを始めたいけれど勇気が出ない、現状が変わっていくのが怖いと思っている方がいれば、ぜひ一歩踏み出してほしいと強く思います。その一歩から新しい世界が次々と広がっていきますし、ご縁がご縁を呼ぶという言葉の通り、人との繋がりの中では1人との出会いが四方八方へと広がっていきます。京都薬科大学で多くの人に出会い、様々なことに挑戦できる環境に感謝し、後悔のない大学生活を送ってほしいです。そして山科で過ごす大学生活の思い出の一つとして、ぜひ隨心院にも足を運んでみてください。



第44回鴨川茶店にて

かとう たけし
■ 3年次生 加藤 丈使

3月11日から17日までの間、沖縄科学技術大学院大学（OIST）で、薬学だけでなく他の科学分野について見識を広げられる貴重な経験をする事ができた。学部生および大学院生（修士課程）が、「Joy of Discovery」というテーマの下、応募理由を含むパワーポイント7枚（全て英語）にまとめ応募し、選考の末に日本、アメリカ、カナダ、マレーシア、インドネシアから様々なバックグラウンドを持つ30名



研究室で実験計画中（右：筆者）

がプログラムの参加権を得た。その中に飛び込んだ僕は後述するが、色々なことで驚き、自分の科学に対する向き合い方を考えさせられた。

OISTは日本の既存の大学とは大きく異なり、教授・学生の8割以上外国人であり、OIST内での公用語は英語である。おしゃれなカフェにはお昼時になると、ここが日本か疑うほど色々な国の人で賑わっていた。

プログラムの内容としては、月でのサバイバルや、脳の可塑性をテーマに討論をしたり、OISTの研究室や最先端の設備を見学したり、ノーベル賞受賞者の講演を聞いたり、Joy of Discovery をテーマにプレゼンテーションをしたりした。そのどれもが新鮮で興味深かったのだが、これらすべては英語で行われた。参加時、僕は2年次生であったが、プログラムが始まるまではなんとかかなと思っていた、英語のリスニングやスピーキングは、ことごとく通用せず（致命的だった）、120%プログラムに打ち込めたかと言われると、悔しいがそうではない。グループディスカッションでは、他の参加者は英語での議論ができるほどの手練れがおり、圧倒されてしまった。他のグループには、僕と同レベルくらいの人もいたが、彼らはその議論に食い込んでいた。

これから学年が上がるにつれ、英語を通して薬学を学んだり発信したりする機会が増えていくと思うが、他の学生を見るにつけ、自分の英語力を底上げ



修了式の後、参加メンバーと
（▽：加藤、▼：上南）

する必要があるように感じた。

僕が今回のプログラムを通じて感じたことは、各参加者の自分の専門・興味に対する理解度の高さはもちろん、自分の専門から外れた事柄に対しても反応できる、知識網の広さだった。今回は大学の寮に宿泊していたが、そのルームメイトは、東大の1年でまだ専門は決まっていなかったものの、生物に興味を持っていて、夜な夜な物理化学の参考書やプログラミングの参考書を読み解いていた。これはあくまでも一例なのだが、食欲に専門や一見興味の外にあるものを吸収する姿勢が、知識網の広さにつながっているのだろーと思ひ、自分も身につけたい姿勢である。

今回は1週間という短期間ではあったが、密度がギュッと濃い参加して良かったと思えるプログラムであった。この経験を糧に、3年後の英語の卒論発表会ではリベンジできるよう、英語力およびディスカッション能力を磨きたい。また、3年後期から始まる研究活動を通して、今回学び得た知識、経験をブラッシュアップして薬剤師としての職能を広げたいと思う。



グループ実験の様子
（左から2番目：筆者）

“OISTサイエンスチャレンジプログラム”は、まさに、科学に対する情熱をより高め、次のステップに進むためのきっかけとなったワークショップであった。研究者という職業に興味がある方、大学院での研究を考えている方、自分の中の科学の世界を広げたい方、すべての学生にこのワークショップを勧めたいと思う。

OIST Science Challengeでは日本・海外から集まった30人の学生が参加し、OISTで行われている研究の見学や、研究データの扱い方、プレゼンテーションの仕方など、1週間スケジュールいっぱいにアクティビティが用意されていた。OISTの設備の豪華さや快適な研究環境に驚かされ、レベルの高いプレゼンテーションを聞き、非常に感動した。私がワークショップの中で一番印象に残ったことのひとつは、一緒に参加したメンバーの分野の多様性や、物事をとらえる方向性の違いである。

参加したメンバーは、物理、生物、化学、さらにより専門性の高い免疫学や神経学、量子力学など様々な分野の学生が集まっていた。彼らは自分の分野だけに留まらず、今まであまり関わったことの無いと言っていた他分野のことにも、常に広い視野で学ぶ姿勢でいた。その態度に非常に刺激を受け、様々な分野や研究に興味を持って過ごすことができた。時間の空いた夜には様々な会話をした。それは生物多様性の話や、経済の話、ディズニーランドの運営についての話、日本の政治の話など、科学の話だけではなく、非常に面白かった。たくさん話を聞いていたうちに、彼らが自分のしたいことを具体的に持ち、将来を見据えているということに気が付いた。そして、今まで自分が背けてきた「自分の将来」について嫌でも考えさせられた。

ワークショップ中はすべての連絡事項が英語で行われ、ミニプレゼンテーションが数回行われた。英語で議論するのは難しい点もあった。だが、英語力だけではなく、もっと物事を深く考え、自分の意見をはっきり言えるようになるには、様々な経験をし、さらに勉強しなければならないと強く感じた。物事を違う角度から捉えることの大切さや、それらを積極的に受け入れるということは自分の視野を広くしてくれた。勉強に対する意識が、「しなくてはいけないもの」から、「したいもの」にはっきりと変わった瞬間でもあった。

今回のテーマは「Joy of Discovery」。最終のプレゼンでは、研究者が見つけた発見の喜びは患者さんの喜びにつながるのだと言いたかったのだが、自分の発表には自信がなかった。他のみんなと違って



グループで課題に取り組む
(中央：筆者)

今の研究について述べたり、具体的なことを伝えたり、まだその時点では私は何が出来るか思いつかなかったからだ。研修に行ってから発表前日の準備の日までひたすらに悩んだ。しかし、ワークショップを受けて行く中で気付いたことがある。ここにいる人は皆科学が好きで科学に興味があって、何にでも興味をもち、受け入れてくれるのだと。そんなメンバーと一緒にいたことで、自分の思いをぶつけた発表をしようと思えるようになった。人に自分の考えをプレゼンすることは、何を言われるか不安であり、他の人と比べることでネガティブな思考になってしまうことが多かった私。でもその中で、そんな気持ちに負けず、本当に自分が言いたいことを言えた時の達成感は大変大きかった。私の発表は自分が薬の専門家として何が出来るのかといったシンプルなものとなった。周りのレベルは高かったが、今まで行ってきたプレゼンテーションより、何倍も自分で納得できたものが出来た。

4年次生の後期試験後に、私はこのワークショップに参加したが、自分がしたいことに気づくことが出来、将来の展望が見えてきた。参加した人によって感じ方は様々であると思うが、何にせよ、自分と向き合い、研究とは何かを考えることが出来ることは間違いない。あなたを変える何かがこのプログラムにはあります。是非、挑戦してみてください。



“Joy of Discovery” 最終プレゼンテーション(筆者)

第2回「クリニカル・リサーチ・マネジメントプログラム」開催

Event

実践薬学コース 医薬開発ユニット担当：教授 矢野 義孝

2016年度に引き続き、2017年度の本プログラムが2018年1月15日から2018年3月2日までの日程で開催されました。ビジネス英語の基礎や臨床開発業務を題材とした英語での解説やグループ討論、プレゼンテーションなど、パレクセル・インターナショナル株式会社からの外国人講師による昨年度と同様の7週間のプ

ログラムとなりました。参加者が7名と少なめでしたが、終始アットホームな雰囲気で終了しました。2018年度は4年生も受講対象とし4年次生は5週間のプログラムにすることでより受講しやすく工夫しました。今後多くの学生の積極的な参加を期待します。



グループ討論の様子



プレゼンテーションの様子

キリンビール（株）滋賀工場による飲酒マナーセミナーを行いました

Event

学生課

2018年度の新入生を迎えるにあたって、新歓時期における飲酒事故防止のため、クラブ・サークルの代表者を対象に、キリンビール株式会社滋賀工場による飲酒マナーセミナーを行いました。参加学生は、「アルコールパッチテスト」を実施し、自身のアルコール体質を知るとともに、実際に飲酒事故の事例を参考に飲酒に対する理解を深めました。



セミナーの様子

News

教育後援会からのお知らせ

学生課

4年次生を対象に、医療者のためのくすりの本「治療薬マニュアル」を寄贈しました。実務実習前の事前学習として活用することができ、大変喜ばれています。

また、今年度実務実習に臨む5年次生を対象に白衣授与式が行われ、学生1人につき大学名入りの白衣2着が授与されました。2着のうち、1着は大学、もう1着は教育後援会で補助しています。

10月には例年通り教育後援会総会を開催いたします。詳細につきましては別途ご案内させていただきますので、多数のご参加をお待ちしております。〔開催日2018年10月6日（土曜日）予定〕

＜愛学躬行歴史資料室の完成＞

私立独逸学校の開校から、京都薬学専門学校を経て、現在の京都薬科大学に至るまでの歴史を歴史資料とパネルで紹介した愛学躬行歴史資料室を本年5月、育心館3階に開設しました。是非一度ご覧ください。見学ご希望の方は京薬会まで。

(TEL:075-595-4621)

＜2018年度 京薬会代議員総会の開催＞

2018年度京薬会代議員総会を5月26日（土）に開催しました。

午前中には支部長による支部長会、そして午後には代議員総会が開かれました。支部長会においては、現在の京薬会ならびに支部活動の活性化、その他京薬会活動のさまざまな話題について、各支部長の意見集約とともに活発な議論が交わされました。

また、午後から全国から集まった支部ならびに年次代議員により平成30年度代議員総会が開催されま

した。この中では、29年度事業報告、29年度決算、30年度事業計画ならびに予算案が審議され、いずれも承認されました。活動報告の中では本年5月に歴史資料を展示した愛学躬行歴史資料室が開設されたこと、また事業計画では第3回となるリカレント研修（調剤業務基礎研修講座）を今年も7月に開講することが報告されました。

＜ホームカミングデー開催予定＞

本年度で第9回となりますホームカミングデーは昨年と同様京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせて11月4日（日）に開催します。今年は本学統合薬科学系 高田和幸教授にiPS細胞を利用した再生医療について講演を頂く予定です。卒業生の皆様の多数ご参加をお待ちしております。

News お知らせ

■ 2018年度 入学宣誓式を挙行了しました

2018年度京都薬科大学入学宣誓式を、4月2日（月）午前10時から創立130周年記念館で挙行了しました。

2018年度新入生数は、薬学部薬学科407名、大学院薬学研究科薬学専攻博士課程9名、大学院薬学研究科薬科学専攻博士後期課程1名、大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程1名です。

当日の学長式辞は、本学WEBサイト新着情報に掲載しています。



2018年度KPU_{NEWS}編集委員は下記の皆さんにお願いすることとなりました

＜委員長＞

鈴木 栄樹（教 授）

＜委員（教育職員）＞

藤室 雅弘（教 授）

藤原 洋一（教 授）

長谷川功紀（准教授）

大石 晃弘（助 教）

＜委員（事務職員）＞

川勝 章広（企画・広報課長）

高野 江里（学生課長）

＜委員（学生）＞

江川 季生（3年次）

小山 未来（3年次）

島 千晶（3年次）

■「日本薬学会第138年会」において、本学の学生7名が学生優秀発表者賞を受賞しました

3月25日（日）～28日（水）に金沢で開催された「日本薬学会第138年会」において本学の学生7名が学生優秀発表者賞（ポスター発表の部）を受賞しました。

受賞者：薬品物理化学分野 5年次生 板垣 渚

演 題：腫瘍深部の微弱低pH下のがん細胞へ薬物送達可能な腫瘍透過性リボソームの開発

演 者：板垣 渚¹、松井 諒¹、板倉 祥子²、斎藤 博幸¹、濱 進¹

（¹京都薬大、²東京理大生命医研）

受賞者：細胞生物学分野 4年次生 伊藤 知恵

演 題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス複製におけるウイルス性タンパク質ORF11の機能解析

演 者：伊藤 知恵、渡部 匡史、藤室 雅弘

受賞者：生化学分野 5年次生 上拾石 佐和

演 題：Rab35が制御する輸送に対するv-Srcの影響

演 者：上拾石 佐和¹、久家 貴寿¹、齊藤 洋平¹、山口 直人²、中山 祐治¹

（¹京都薬大、²千葉大）

受賞者：健康科学分野 5年次生 谷口 真彦

演 題：高齢者の日常生活におけるビタミンB12摂取量と認知機能および精神的健康との関係

演 者：谷口 真彦、長澤 吉則、沼尾 成晴

受賞者：薬品物理化学分野 4年次生 田村 悠樹

演 題：新規両親媒性アルギニンペプチドの細胞膜透過性の評価

演 者：田村 悠樹¹、灘井 亮¹、扇田 隆司¹、原矢 佑樹²、西辻 和親³、内村 健治⁴、長谷川 功紀¹、
加藤 くみ子²、赤路 健一¹、斎藤 博幸¹

（¹京都薬大、²国立衛研、³徳島大院、⁴名大院医）

受賞者：細胞生物学分野 4年次生 鶴見 さやか

演 題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスのコードするウイルス性プロテアーゼORF17はウイルス産生に必須である

演 者：鶴見 さやか、渡部 匡史、藤室 雅弘

受賞者：病態生理学分野 4年次生 福呂 唯

演 題：α7ニコチン受容体特異的刺激によるミクログリアのアミロイドβ 貪食促進

演 者：福呂 唯、高田 和幸、黒田 絵莉子、河西 翔平、戸田 侑紀、芦原 英司

※学年は受賞当時のもので掲載しています。

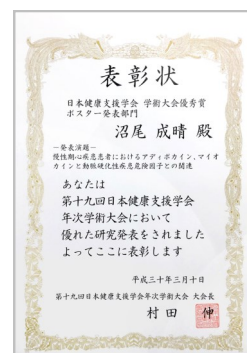
■『第19回日本健康支援学会年次学術大会において日本健康支援学会学術大会優秀賞ポスター部門を受賞』

2018年3月9日～10日に京都橘大学で開催された「第19回日本健康支援学会年次学術大会」において、健康科学分野の沼尾 成晴講師が日本健康支援学会学術大会優秀賞 ポスター部門を受賞しました。

受賞者：健康科学分野 講師 沼尾 成晴

演 題：慢性期心疾患患者におけるアディポカイン、マイオカインと動脈硬化性疾患危険因子との関連

演 者：沼尾 成晴、長澤 吉則、五郎丸 直美、田巻 俊一



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2018年3月～2018年5月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

石本 博美(昭18)	藤本 國勝(昭39)	蘆田 康子(昭45)	井岡 万純(昭49)	西澤 善子(平03)
笠島 俊男(昭28)	伊藤 悦子(昭41)	稲垣 美幸(昭45)	袖岡 茂徳(昭49)	藤田 知子(平03)
安藤 寛治(昭29)	遠藤 妙子(昭41)	鈴木 江波(昭45)	小池 豊(昭50)	三谷 高徹(平12)
布浦 由樹(昭31)	富永 宏資(昭41)	曾我部紀行(昭45)	大石 美恵(昭51)	熊澤 里美(平14)
渋谷 禎彦(昭35)	藤本 恒子(昭41)	武田 忍(昭45)	丹所 稔(昭51)	大西 亨子(平26)
伊藤 武宏(昭37)	森 道子(昭41)	田中 博義(昭45)	進藤 広彦(昭53)	
川原子保子(昭37)	石田 隆(昭42)	内藤 栄美(昭45)	平野 隆(昭55)	
篠山 瑤子(昭37)	山口 博行(昭42)	岩本 典子(昭46)	坂本美智恵(昭57)	
松山 牧子(昭37)	大野 高淳(昭44)	戸井 一郎(昭46)	金口 朋代(昭62)	
本岡美智子(昭37)	高越 清昭(昭44)	渡邊 萬里(昭48)	仲藤 真一(平01)	

＜京薬六三会卒業30周年記念募金（昭和63年卒業生）（五十音順）＞

光明由美子 児玉 実孝 佐々木尚美 本田美奈子 匿名希望

＜平成元年会卒業30周年記念募金（平成元年卒業生）（五十音順）＞

岩井 隆也 張 賢二 丸中 成之

＜京薬四三会卒業50周年記念募金（昭和43年卒業生）（五十音順）＞

坂口 昌弘 田浦 稔康 富永 護

＜団体・一般＞

宮本 真次

＜法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

天ヶ瀬紀久子(元教員) 大原 松雄(監事) 武田 禮二(前理事長) 開 章宏(講師) 森 新(評議員)

(2018年5月31日現在)



KPU NEWS No. 194 2018年7月発行／編集：KPU NEWS編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。